



やまぐち

「有機の星座やまぐち」をつくる会編
2017年7月

『有機の星座やまぐち・2017』を出版するにあたって

やまぐち発で安心・安全な農産物の生産・流通・消費の輪を！

生産者のひとりひとりを「地上の星」ととらえ、それがひとつの星座として輝きを増すようになる未来のために、それぞれの活動とこだわりや思いを冊子に集めて、お互いを知るという目的で、2012年3月に「有機の星座」を出版しました。山口県立大の国際文化学部が、やまぐち環境研の会員の指導のもとに制作したものです。

それから5年目になる今年、「電子ブック」のかたちで改訂版を出します。この間に高齢でやめる方が一方、農業をやりたい方、県外から有機農業をしようとやってこられる方、ことに若者の参入と定着がみられるようになってきたからです。

改訂版は、以下のような方法をとっています。

1. 紙に印刷する、いわゆる冊子としてではなく、パソコンやiPadなどで読める電子書籍のかたちにする。
2. 元版は、山口環境保全型農業推進研究会が発行する冊子でしたが、今回は、山口県立大学国際文化学科の授業である地域実習Ⅰの受講学生を指導して、担当教員であった安溪遊地・安溪貴子がまとめて山口県立大学国際文化学科の地域貢献活動の成果物として公開するものです。
3. 従来の冊子形式は、手渡しを中心としたため流通に限度があったという難点がありました。この点を克服することができるものとして計画しておりますが、ご本人によって「公開されてよい情報」である確認ができましたものについて、公開させていただきます。

編集にかかわった学生たち（山口県立大学国際文化学部地域実習2015年度・2016年度生あわせて20人：愛称「泥パックの会」）は、夏の炎天下に有機農業の田んぼを訪れ、何日も除草のお手伝いをさせていただいて、有機農業の現場がいかに大変な作業なのか、その結果がその年の天候でどうなるのか、そうやっていただく作物がいかにおいしいのかを身をもって知る機会がありました。そのため、この実状を多くの人に伝えるべくこの冊子の改訂に取り組んでくれました。

山口県立大学・名誉教授

山口県立大学・山口大学非常勤講師

安溪遊地（地域学・人類学）

安溪貴子（生物学・文化人類学）

「ゆうきの仲間」の光を捉える

吉松敬祐

東日本大震災は改めて自然と人類の係わり合いを考える機会となりました。東京電力福島第一原子力発電所の放射能による広範囲の取り返しのできない汚染は、私たちに科学技術のもたらす恩恵を享受することと、万一の事故で失うものを、心を澄ませて秤ることの重要性を思い知らされました。

一方でグローバル経済の崩壊が始まっています。リーマンショックにはじまり、ユーロ圏の財政債務危機によるドルおよびユーロ安。その結果として輸出品の競争力が奪われ、我が国の国内生産の縮小と製造拠点の国外移設、さらにそうして外国で安く生産されたものの逆輸入により国内産業が追い詰められるという悪循環がおこっています。

その結果、雇用の場が失われ、貧富の差が拡大しました。都市へ過度に集中した経済の下で都市だけでなく地域社会全体の崩壊が進んでいきます。今取りざたされている TPP 参加となれば、グローバル化の名のもとにとりわけ日本農業の衰退は早まるでしょう。中国山地の多くの集落は崩壊し、一気に消滅へと向かうことでしょう。

日本が日本であり続け、地域の自然、環境、文化をまもり、農山村に人が住める環境を残すためには、地域経済の再生を図らなければなりません。そのためには、適地適作・資材少投入・多品目生産の、有機農業による農業の再興と、食料の安心安全な生産を消費者と連携して再構築することが火急の課題です。しかし、現状では山口県の有機農業をはじめ、自然と環境を大切にして生業を営む実践者は、わずかな数で点在しているだけです。

この冊子によってこれら仲間の存在の光を捉え、互いに知り励ましあうことによって、多くの勇気がわきあがり、新たな人間的な繋がりが誕生することが期待されます。

「身土不二」の理念のもとに、地域循環の経済を再生させ、地産地消の食料の生産と流通に消費者とともに手を携えてとりくむきっかけとなるかも知れません。山口県環境保全型農業推進研究会は、会の活動の大切な一部としてこの冊子の作成を支援しました。

自然と環境を守り、持続的で安心安全な食糧生産を可能とする有機農業者の姿を、ウソのない真っ当な生き方を指向する山口県立大学の若者たちの知恵と力を借りて、確かなメッセージとしてお送りできることを心から喜びたいと思います。

(2012年3月当時：山口県環境保全型農業推進研究会事務局長)

目次

はじめに

「有機の星座やまぐち・2017」を出版するにあたって	1
「ゆうきの仲間」の光を捉える 吉松敬祐	2
目次	3
身土不二の世界へ 中山清次	4
有機／無農薬／減農薬？ この冊子で使う用語の説明	6
地図：平成の大合併の前と後の山口県	7
地図：有機の星座 と その見方	8

有機の星座紹介

第1章 山口～防府地区 :山口市・防府市	10
粟谷 怜……………11	田中正男……………33
安溪大慧……………13	田中康博……………35
石田卓成……………15	種田 実……………37
伊藤繁樹……………17	徳本新治……………39
今井喜子……………19	中澤美樹……………41
亀谷政司……………21	中村進卓……………43
河上 悟……………23	能美忠治……………45
河上 肇……………25	原田正暁……………47
河野龍夫……………27	福田嘉夫……………49
久保芳則……………29	村田竜夫・和江……………51
高橋 正……………31	山影照子……………53
第2章 宇部～下関地区 :宇部市・山陽小野田市・下関市	54
穴戸宣之・佐智子……………55	比嘉朝康……………63
白尾公広・良子……………57	堀野民生……………65
中本浩行……………59	安森ミエ子……………67
新田 孝……………61	
第3章 長門～萩地区 :長門市・萩市・阿武町	68
井上 義……………69	中野茂樹……………73
中野喜美……………71	

第4章 周南～岩国地区：岩国市・和木町・柳井市・周防大島町・上関町・平生町・
田布施町・光市・下松市・周南市

75

浦上卓三……………77	藤井右治……………89
小田耕三・美沙子……………79	松田和彦……………91
木村節郎……………81	宮田正樹……………93
國本悦郎……………83	安田善雄……………95
中浜良太郎……………85	山本千恵子……………97
藤井悦男……………87	

学生たちの有機農家での実習写真集	99
イマドキの大学生が知らない農業関係用語集	100
有機農家の輪をつなげる若者の役割	104
索引	105
編集後記	106
奥付	

身土不二の世界へ

中山清次

防府市大道の中山です。環境保全型農業のみなさんにお話しできることを本当にうれしく思います。よくこの年まで生きてきたな、と思います。昭和16（1941）年12月8日の開戦の詔勅を聞いて、25歳までの命だな、と覚悟したものでしたが、生きて戻ってきた。よく戦友が、「あとに続くものを我信ず」といって散華したことを思いおこします。みなさんも「身土不二」の世界を追い求める取り組みを続けていただき、あとに続くものがあるということを感じていただきたいと思います。

「身土不二」の世界に触れたのは、昭和13年。百姓になって1年目、金子大栄さんのお話を聞きました。東本願寺の僧侶で、広島師範大学の先生であり、A級戦犯の教戒師をされた方でした。人間が生きること、平和の根源は「身土不二」であり、毎日の生活を大事にすることがもっとも大切だと言われたことに大きな感銘を受けました。

戦後の日本は変わったのお、と思います。金もうけ一辺倒。自分さえよければ、経済さえよければ国はそれでいい、という考え方。それに鉄槌を加えたのが、昨年の福島第一原発の事故でした。私は、軍の要塞のなかで、長崎の原爆の音をききました。人間を殺してしまうような技術、これは「おのれ本位」の暮らし方、そういうものを考え直せという天の声だったと思います。

時の流れとともに人々の文化や生活が地域地域で分化してきました。そうした、異なるものが互いに尊重しあいながら共存することが大切です。ですから、TPPのようなことは、お話にならない。関税同盟に入ったものだけが仲良くするというようなことがどうなるか。私が一番心配しますのは、中国を排除する動きにつながることです。地域ごとに独自の文化をもち生活をしていく、それが大切です。日本は日本なりに、中国は中国なりに、発展していかなければならないのです。

昭和14年、高千穂の峰の近くの山に植物採集に行きました。リンネ学会の一環で、植物を観察していると、足下に都井岬が見えて、その先には「潮路」というものが見えたのです。それで、黒潮の恵みで、我が国が樹海に覆われていることに気付きました。そこから清水がわいて、それで水田をつくった歴史を思いました。文芸もそこから生まれたわけです。

そんな風土を感じられるアジアの旅が好きで、中国にも何度となくまいりました。黄河・文明・哲学……。さらに、日本の資本主義が自分たちのためにまわりの国々を侵略してきた歴史。当時、国粹主義を批判してアジア主義を唱えて、多くの学友が逮捕されました。

異なる地域に暮らし、異なる文化をもつ民族が補いあう、助け合う、そういう立場から、食の生産と環境保全。それこそが世界平和への道、身土不二の世界であります。

(山口県環境保全型農業推進研究会名誉会長)

2012年1月28日の山口環境保全型農業推進研究会の総会での講演から抜粋

有機／無農薬／減農薬

この冊子で使う用語の説明と、この冊子の使い方

「有機農業」が何を意味するのかは、いろいろ議論されてきました。平成 12 (2000) 年には「有機 JAS 規格」が定められ、また平成 18 (2006) 年には「有機農業の推進に関する法律」が定められました。この法律の第二条 (定義) には、「この法律において『有機農業』とは、化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう」とあります。

初版の「有機の星座」を出す母体となった「山口県環境保全型農業推進研究会」でも、「有機資材」とは何か、どこまでを「有機」というのか、何度も議論をしてきました。どこまでを「有機」というのかは考え方により線引きが難しいところです。

そこで、この冊子では、《農法等》のところで、「有機栽培」とは書かずに、「無農薬・無化学肥料栽培」あるいは「農薬や化学肥料を使わない栽培」と表現しています。「農薬」は「化学合成農薬」のことで、木酢やトウガラシといった有機物質は農薬としていません。「有機 JAS」をとっている人もいますが、そうでない人もいます。

ページの中で疑問に思ったこと、もっと知りたいことは、そのページにある連絡先に直接お聞きになって下さい。それぞれ「この情報を載せます」という了解をいただいて載せています。また、栽培方法や技術、農産物は年ごとに変わります。その時々気候や状況にあわせて日々田畑に対峙し、生き物と対話しながらのことですので、2017 年 3 月に記した内容とは異なる場合も起きてくるとおもわれます。

私どもは、「有機農業」を志す人が少しでも増えて欲しいという思いからこの冊子を準備しました。有機栽培をしているけれど、全面積ではなく、別の田畑では、減農薬栽培や、一般の栽培法 (慣行栽培) もしているという方も、今後有機栽培を増やし広げていく方々としてご紹介し、《農法》の欄でそれがわかるように書いていただきました。

また、《所屬》を見ると県内のいろいろな活動グループの方がおられることがわかります。《区分》ではおもに、専業農家・兼業農家・退職専業農家といった項目ですが、農業に関する役柄も、書かれている場合があります。

《販売形態》は、友人知人への直接販売・産直組織グループをもっている・委託販売・農協への出荷・その他、という項目から選んでいただいて記しています。

有機農業に用いる《肥料および資材》、《雑草への対処》また、《農法》などに出てくる用語については、巻末の「用語集」をご覧ください。農業について予備知識が少ない若者にもわかるように、という視点でまとめています。

その他の《有機農業を始めたきっかけ・理由》、《こだわり・体験談》、《現在かかえている問題》、《メッセージ》の項目は、できるだけ自由に書いていただきました。

ご紹介する農家の順序は、

- 【1】 最多人数の山口県中部の山口市・防府市、から時計回りに
- 【2】 西部の宇部市・山陽小野田市・美祢市・下関市、
- 【3】 北部の長門市・萩市・阿武町、
- 【4】 東部の岩国市・和木町・柳井市・周防大島町・上関町・平生町・田布施町・光市・下松市・周南市、の4章にわけています。

平成の大合併の前と後の山口県



第1章 山口県中部：山口市・防府市

あわや さとし
★栗屋 怜

「あわや自然農園」

〒747-0231 山口市徳地堀 2039

電話：090-4579-0389

メール：s-awaya@c-able.ne.jp

有機農業を始めたきっかけは、慣行農法(近代的農法)に疑問を感じていたためです。環境変化への危機意識、「妙なる畑に立ちて」(川口由一)という本を読んだことなどです。特定の農法を信仰しておらず、なるべく小規模で暮らせるようにしたいです。



《区分》 専業農家

《所属》 山口県有機農業研究会、
山口環境研

《従事者》 本人、妻、娘、他

《面積》 水田/150a 畑/100a

施設園芸/4a 合鴨/160羽

《研修生受入》 有・可。見学も有・可。

《農法》 稲作：無農薬・無化学肥料栽培
畑作：無農薬・無化学肥料栽培

《主な作付・生產品目》

休耕田作目：多品目野菜、つまり基礎野菜（ジャガイモ、ニンジン、タマネギ、キャベツ、白菜、ネギ、ダイコン、サツマイモ）を中心に約 80 品目程度。

水田裏作：多品目野菜（30a 程度）

畑作：多品目野菜

その他：水田稲作

《雑草への対処》

稲作：合鴨、動力除草機

畑作：手作業、管理機

《販売品目》 野菜、お米、合鴨肉、合鴨卵

《販売形態》 友人・知人への直接販売、委託販売、その他

《現在抱えている問題》

可能なる自給圏というかたち、そのために機能するネットワークづくり・イソノミア的農園づくりをしたい。これは「独立自営農民」のイメージです。

《将来めざしたい方向》

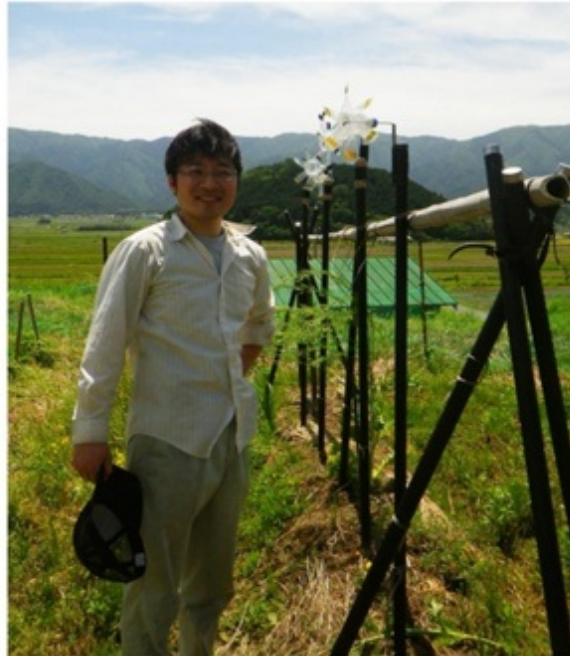
規模を縮小して暮らしを成り立たせること

《メッセージ》

市民皆農、農は皆のものです。



2012年4月、徳佐の田んぼに水を引き、代掻きを始めたら、ツバメがやってきました。ツバメの巣は田んぼの泥と、藁や草でできていることに気づきました。「つばめ農園」はそこからもらった名前です。



3.11の東日本大震災と原発事故により、食の安全も大切なのではないかと考えたことが有機農業を始めたきっかけです。古民家と田畑を譲っていただいて2012年から徳佐です。化学肥料や農薬、除草剤を使用しないことにこだわっていますが、有機農業を始めて2年目に土石流災害を受けました。復旧工事のため翌年1年の休耕、耕地のほとんどに土砂（山土）が厚さ10cmも入ったので、土壌がゼロ点にリセットされた感じで、雨が降ると排水が悪く、乾くとガチガチの石のような土になり、スギナが一面に生えました。なので土づくりからぼちぼちです。

有機農業の師匠がイセヒカリの品種の守り手・吉松敬祐さんなので、お米の品種はイセヒカリです。

大豆はタマホマレ。味噌作りにと煮た豆を「おつまみするとやめられない」とお客様から聞いてうれしかったです。でも去年は収穫に失敗して、「有機大豆が欲しい」とおっしゃるお客様にお渡しできず…、今年がんばります！

《区分》 専業農家
《所属》 山口環境研、阿東ゆうきの会
《従事者》 本人、家族
《面積》 水田/50a 畑/7a
《研修生受入》 不可。阿東ゆうきの会で、相互に見学会をしている。
《農法》 稲作： 農薬・化学肥料・除草剤を使わない栽培。
畑作： 農薬・化学肥料・除草剤を使わない栽培。

《主な作付・生産品目》 田： 稲
休耕田作目： 大豆、野菜
《雑草への対処》
稲作： チェーン除草機（機械・人力とも）、手押し除草・機械除草、手取り除草
大豆： 土寄せ2回、手取り、草刈機。
野菜： 草マルチ、手取り。
《販売品目》 米（玄米・白米）、白大豆
《販売形態》 友人、知人への直接販売、有機農産品や商品を扱う店に委託販売。



《現在抱えている問題》

2013年7月28日の山口・島根の豪雨災害で、田畑に土石流が10センチくらい入り、修復が終わった今も、ため池のヘドロは除くことができないので、水量確保と、土づくりが課題です。毎年の天候に左右されて収量が安定しないことなど。

生えてきて困る草ですが、共存しながら、できればうまく使えたらと思っています。

現在、ほとんど直販なので、なかなか売れず、販売方法も大きな課題です。

《メッセージ》

食べてくださるお客様があって、はじめて農家として生きていけます。感謝しています。

いしだ たくなり
☆石田 卓成



「天神自然農園」

〒747-0062 防府市大字上右田 1068-5

090-4650-4324

e-mail : taku@y-brand.com

URL: <http://www.sizensaibai.jp/>

元々、農家ではありませんでしたが、10年前、新規に農業を始め、最初の2年間は慣行でやってみましたが、何かが変わったと感じたため、無農薬栽培に切り替えました。

最初は地域の中でも、無農薬だなんて変わったことをする人だと思われていたみたいですが、今では同じような方法でされる方も徐々に増えてきました。

市内の複数の地域の農家さんたちとグループを作り、「環境直接支払制度」の取り組みをしています。

今後は集落営農法人を設立し、今後は他の方々の力もお借りしながら、地域を守って行く予定です。

地域として、新規就農希望者を大募集中です！

《区分》 専業農家/防府市議会議員/
防府市農業委員

《所属》 山口環境研

《従事者》 本人 45 歳、家族

《面積》 水田/905a

(内訳：食用米 738a、飼料用米 167a)

畑/60a 施設園芸/15a 採卵鶏/30羽

《研修生受入》 受入可。見学・視察可。
H28 年春、1 年半の研修終了後に認定新規就農者として 1 名が美祢市で就農済。
H29 年 4 月から 2 年間 1 名を研修受け入れの予定。

《農法》 全て無農薬栽培。

稲作：食用米は自然栽培。

飼料用米のみ化学肥料使用。

畑作：炭素循環農法を実験中^{^_^}

《主な作付・生産品目》

水田：食用米 朝日（在来種）農林 22 号

畑作：野菜全般

その他：ぶどう・みかん等

※飼料用米以外は、全て有機 JAS を取得しています。

《雑草への対処》

稲作：「ジャンボタニシ除草」。殆どの田にジャンボタニシがいるため、ほぼ何もなくても良い状態です。

畑作：マルチを使用

《販売品目》 食用米、野菜

《販売方法》 インターネット直売、消費者団体様、卸業者様、小売店様等

《現在抱えている問題》

特にありません。

《将来めざしたい方向》

高齢化や、後継者不在、経営難等で、農業を営める方が年々減っているのに、若い人を、どんどん呼び込み、何とかして地域を守っていきたいと考えています。

《これから始めたい人へ》

新規就農を目指されている方、大歓迎です！

空き家も農地も、いくらでも探しますので、お気軽に、何でも相談してくださいね^_^

いとう しげき
☆伊藤 繁樹

〒759 - 1232 山口市阿東篠目 778
(電話・Fax) 083 - 955 - 0613
メール : slgesan2721@gmail.com



退職を期に、妻の里に帰り農業を始めました。元々、自然や生き物が好きで、四季折々の美しさのなかで、農作業をする度にいろんな生き物に出会う楽しみと驚きは飽きることはありません。美しい里山環境を守る農業を目指しています。

《区分》退職専業農家

《所属》山口環保研、阿東ゆうきの会

《従事者》本人、妻

《面積》水田/250a 畑/15a

《研修生受入》否。見学は可。

《農法》

稲作：無農薬・無化学肥料栽培、減農薬栽培、

慣行栽培もあり

畑作：無農薬・無化学肥料栽培、減化学肥料

ボカシ肥料（米ぬか）

《主な作付・生產品目》

休耕田作目：ジャガイモ、大根、玉ねぎ、ラッキョウ、ゴボウ

水田裏作：時々麦、大豆

畑作：トマト、キュウリ、ナス、里芋、サツマイモ、豆類、アスパラガス、大根、ジャガイモ

《雑草への対処》

稲作：チェーン除草、機械除草、手取り

畑作：手取り

《販売品目》有機の米

《販売形態》友人・知人への直接販売、産直組織、農協への出荷

《現在抱えている問題》

水稲も野菜も草です。農家にとって草刈りは重労働です。1年を通して、草刈り時や刈り方などを勉強したい。

《メッセージ》

里山は高齢化と後継者不足で荒地が増えてきました。生産者や生産地に消費者は足を運んでみてはいかがでしょうか。

いまい よしこ
☆今井 喜子

「おしゃべり農園」

〒753-0091 山口市天花3-11-5

083-924-2532

yoshikoi@ya2.so-net.ne.jp

<http://blog.campan.info/nouen/>



有機農業を始めたきっかけは化学肥料や化学農薬を使いたくないと思ったことです。まわりに農業を知らない人たちがたくさん住んでいるし、これからも宅地が増えてきます。楽しみながら農業をすることで、まわりの人たちに農業や、農産物などお話をしたりすることにしています。



《区分》 専業農家（趣味の農業と言った方がよい）

《所属》 山口環境研

《従事者》 本人 家族1人（土日のみ）

《面積》 水田/10a 畑/55a（地目としては畑ではなく水田）

《研修生受入》 受け入れ・見学とも無し。

《農法》 稲作：無農薬・無化学肥料栽培
畑作：無農薬・無化学肥料栽培

《主な作付・生産品目》

水田：稲

休耕田作目：野菜各種

《雑草への対処》

稲作：機械除草（エンジン付き手押し除草機）
手取り除草

畑作：草刈り、手取り除草

《販売品目》 野菜各種

《販売形態》 産直組織・グループを持っている

《現在抱えている問題》

一年一年歳を重ねていくにしたがって、もともとなかった体力がさらになくなっていきます。いかに省力化しながらやっていくか、自分流のやり方を工夫する必要があると思っています。

《将来めざしたい方向》

親子で土にふれ、花や野菜や虫も楽しめるグループ農園が作れたらと思っています。

《これから始めたい人へ》

「さあ始めよう！」とあまり気負わなくてよいのでは。ぼつぼつと一、から。種をまいたら芽が出た…というくらいから始めるのでよいのではと思っています。自然の土に触れること、見るのが大切だと思います。

かめたに まさし
☆亀谷 政司

「どりあんの森」

〒753-0303 山口県仁保下郷



自然に恵まれとても良い子育てが出来ました。子どもたちは順調に育ち、特に長男は竹トンボの飛行の研究で科学技術大臣賞を頂き、ロサンゼルスに招待され発表しました。子どもたちは進学により二人は家を出てしまい、動物たちも多くは死んでしまいました。環境はとても子育てに重要な事だと思いました。

食べ物もですが、その全体的な要因が影響すると強く感じています。

《区分》市民活動団体・グループ
《所属》山口環保研
《従事者》本人、家族
《有畜状況》畑/1a 採卵鶏/3羽
《研修生受入》研修生:否(土日なら調整により可) 見学:可
《農法》多種 多品種栽培
無農薬・無化学肥料栽培
《主な有機肥料・資材の種類》
鹿野ファームより購入。自作堆肥

《主な栽培作物・生産品目》
畑作:ナス、トマト、きゅうり、
オクラ、ダイコン、カブ等一般野菜。
エビスグサ等薬用野菜。
ササゲマメ、ヤグラネギ等地域
野菜。ヤーコンイモ、キクイモ。
その他、カキ、クリ、キウイ、
イチジク、プルーン等果樹
《雑草への対処》草刈り機
《販売》なし

《留意や工夫していること》

畑作：ベストタイミングの種まき。

家畜：緑草や、野菜についた虫を与える。

《有機農業を始めたきっかけ・理由》

海外協力の視点から、理想を追求して。子育てに良いと考えたから。

《現在かかえている問題》

仕事が多忙で両立が困難。腰や肩が痛い。

《将来目指したい方向》

交流の場を復活させたい。

《消費者へのメッセージ》

自分で汗水かいて作った食べ物は美味しいです。

かわかみ さとる
☆河上 悟

住所：〒753-0841 山口市吉田 2050-1
電話：083-925-3517



自分で食べるものは自分で作ることから有機農業をはじめました。身体に害するような食品が巷に氾濫しています。ガンや、アレルギー体質の人が増加の傾向にあります。化学肥料、農薬を一切使用しない安全な食品（野菜）を提供したいと考えています。

《区分》兼業農家
《所属》山口環境研、MOA
《従事者》本人
《面積》畑/10a
《研修生受入》平素働いているので難しいと考えます。
《農法》化学肥料、農薬を一切使用しないで、糖を中心にボカシ等菌を使った農法で行いたいと考えています。土着菌農法等です。MOA農法です。

《主な栽培作物・生產品目》
畑作：白菜、ダイコン、カブ、サトイモ、ブロッコリー、春菊、ほうれん草、レタス、サニーレタス、ネギ、玉ねぎ、ナス、トマト、キュウリ、オクラ、ニンニク、豆類、ソラマメ、ジャガイモ、サツマイモ、キャベツ、
その他：
《雑草への対処》黒マルチを使用、手取り
《販売形態》JAコープに出荷、他のお店に少し提供している

《こだわり》
野菜等はできるだけ手をかけずに省略農法を常に考えてやっています。
《現在抱えている問題》
たとえば野菜の生産者が集荷センターにもっていき、首都圏に販売するなど有機野菜としての販路が欠如していると考えます。販路の拡充を非常に求めます。



有機農業を始めたきっかけ・理由は、食による健康を求めて、また、両親が自然農法をしていたので作りたかったからです。体に良い野菜を作りたいという思いがあるので、これからも継続できると思います。

大根に虫がついても、大根の力で負けないで成長していく姿を見ると、大自然の力を感じます。

《区分》退職專業農家
《所属》MOA
《従事者》本人と妻
《面積》水田 16a 畑 9a
《研修生受入》不可
《農法》MOA自然農法。現状程度のやり方で末永くやっていきたい。

《主な作付・生産品目》
水稲、露地野菜
《雑草への対処》
手取り・手押し除草機
《販売形態》 友人、グループ
《販売品目》 野菜

【現在抱えている問題】

作っている周辺が休耕している畑が多いので害虫が多くて、作物には全部網をしなければ良い野菜が出来ない。

【将来めざしたい方向】

現状程度で、末永くやっていきたい。

【消費者へのメッセージ】

かわの たつお
☆河野 龍夫

住所：〒747-1231 防府市大字切畑
1870
電話：0835-32-1424



自然栽培の水田には「つばめ」
が乱舞しています。
野良仕事は楽しいものです。
自然栽培の米の「美味さ」「生命
力」を広めたい。

《区分》兼業農家
《所属》MOA
《従事者》本人
《面積》50a
《研修生受入》不可
《農法》MOA自然農法
水田：無農薬・無化学肥料栽培。
畑：無農薬・無化学肥料栽培。

《主な作付・生產品目》米
《雑草への対処》
《販売形態》
《販売品目》米

《こだわりや経験談など》
イネの立ち姿には感動している。美しい。
《現在抱えている問題》
雑草対策
《将来めざしたい方向》
百姓の楽しさを若い者に伝えたい
《これから始めたい人へ》
自然栽培は、正直、大変です
《消費者へのメッセージ》
自然栽培の「米」は美味です

くほ よしのり
☆久保 芳則
みつえ
光枝

〒753-0303 山口市仁保下郷 2544

電話：083-929-1269

農協の指導員の話聞いて、安心安全な野菜を作りたいと思ったのがきっかけで有機栽培を始めました。



《区分》兼業農家
《所属》山口環保研
《従事者》本人、妻
《面積》水田：74.8a
畑：31.9a
《研修生受入》見学、
研修ともに不可
《農法》
無農薬・無化学肥料
栽培、減農薬栽培

《主な作付・生產品目》

ナス、キュウリ、白菜、キャベツ、ブロッコリー、ゴーヤ、タマネギ

《雑草への対処》水田：鍬で削る、手で取る

《販売形態》コープ産直

《販売品目》ナス、キュウリ、白菜、キャベツ、ブロッコリー、
ゴーヤ、タマネギ、大根、長ネギなど

《こだわり・体験談》

稲作:水管理・あぜ草をこまめに刈る(風通しを良くする。虫がよりつかないようにする)・株の間隔を広くして植えつける。

畑作: 1つの作物に対して土地を広くあたえる(株間隔を広くする)
野菜の姿を良くする(売り物には紅をさせと云うことわざがあります)。
水と肥料のバランスで良い作物ができます。

2016年は、稲作は10アール11俵で味も良く1等米でした。

秋冬野菜は雨が多く葉物野菜は不作気味です。

たかはし まさし
☆高橋 正

かかし
「案山子農園」

〒759-1602 山口市阿東嘉年下 2400

電話:090-9571-8022 ファクス:083-958-0387



阿武川の源流の嘉年（かね）は、自然豊かで楽しい田舎生活ができる場所です。

30年前にUターンした時から、自給できるものは、すべて有機・無農薬で作りたいという思いから、有機農業を始めました。

《区分》兼業農家

《所属》山口環保研、
阿東ゆうきの会

《従事者》本人

《面積》水田：40a、畑：30a

《研修生受入》なし

《農法》

自家製EMボカシ肥料を主とした有機農業。

《主な作付・生產品目》

稲作：イセヒカリ、

畑作：里芋（5、6種）、ラッカセイ（オオマサリ）、ニンニク、ラッキョウ、タマネギ、その他。

《雑草への対処》黒マルチ

《販売形態》山口市の商店街で、阿東の農産物の直売所「案山人（かかし）」を自営している。

《販売品目》

ラッカセイ、ニンニク、その他

《現在抱えている問題》

直売所との兼業なので、農業への時間があまりとれないこと。
まわりに仲間が少なく、小規模でしかできないこと。

《将来めざしたい方向》

サトイモやニンニク、ラッカセイ等、国産のものは、ほとんど流通していない。特産品として栽培を広めたい。

《これから始める人へ》

自然観察と体験あるのみ。

《メッセージ》

体力の続くかぎり、直売所は続けたい。山口市中心商店街「道場門前」の、まちなか あさいち「案山人（かかし）」へお越し下さい。

たなか まさお
☆田中 正男

「田中農園」

〒753-0241

山口市大内問田2丁目7番26号

電話：083-925-4843

「微生物が文明を救う」という本を読んだことから有機農業を始めました。
自然との共生、金をかけない農業です。
自然農法で耕さない・持ち込まない・草や虫を敵にしないという姿勢でやっています。

《区分》退職専門農家

《所属》山口環境研

《従事者》夫婦

《面積》畑：10a

《研修生受入》研修不可

《農法》

自然農法。耕さない・持ち込まない・草や虫を敵にしない

《主な栽培作物》

グリーンピース、大豆、枝豆、大根、キャベツ、ウコン、青梅、柿、ヤーコン、トマト、ラッカセイ

《雑草への対処》

《販売形態》委託販売

《販売品目》

グリーンピース、枝豆、トマト、ラッカセイ、ヤーコン

《メッセージ》

美味しい野菜を食べて、楽しい人生を送ってほしい。

金のかからないものを探してほしい。

有機農業のことを多くの人にしてもらいたい。

たなか やすひろ
★田中 康博

「田中農園」

〒747-0842 防府市清水町 22-32

電話：0835-38-3397

poohtyan2004@yahoo.co.jp



《区分》兼業農家
《所属》山口環境研
《従事者》本人、妻、弟
《面積》水田：53a
《研修生受入》
研修・見学不可
《農法》無農薬、
カバークローブ

慣行農業の米の食味に疑問を持っていた時に、同じ地域で米作りをしていた、石田卓成さんに会い、有機農業を始めました。山口環境研会長の言葉の中で、「スポーツクラブで汗を出すよりも、草取りで汗を出しなさい」の言葉を実践しています。

「有機の星座」、食の安全の考えに共感します。これからも、農業の将来のため、微力ではありますが、有機農業をしていこうと思っています。

《主な作付・生産品目》米
《雑草への対処》水田/除草機による除草と手での除草
《主な有機肥料・資材の種類》ヘアリーベッチ
《販売形態》友人・知人への直接販売
《販売品目》米

《メッセージ》

日本人が主食である米を食べなくなったことが問題です。我が家でも土曜、日曜には種類が多くなっています。女性はダイエットのためデンプン質を取らないため米を食べません。

農業はすぐに結果が出る職業ではないように思います。5年、10年の長期計画が必要ではないかと思えます。

還暦前の年齢になりました。昨年、腰痛でヘルニア手術をしました。除草が腰に負担をかけているとも感じました。体調不良により気力がなくなり、有機農業ができるか不安になりました。農業を伝えていきたいのですが、子供は興味がないようです。これからの農業が心配です。

たねだみのる
☆種田 實

「種田農業土木」

〒747-0105 山口県防府市大字鈴屋

電話：0835-36-0335

携帯：090-3172-016



30年前の話です。近所に大きな製材所があり、毎日ダンプカー1台分の皮を焼却しているのを見て、もったいないと思い、二年半くらい毎日引き取り（ダンプ700台から800台くらい）、パーク堆肥にした。やがてその上にワラビが自然に育った。3年前、自宅にパークを持ち帰り、ワラビを移植した。いざ育てようとすると思うようにいかないもので、本年で三年目だがようやく全面に育ちました。

山口の「ういろう」に無農薬、地元産のわらび粉がまかなえるとよいという夢をもっています。

《区分》退職專業農家（55歳で退職）

《所属》山口環境研

《従事者》本人、常用1名

《面積》水田：1500a 畑：自給用3a、わらび5a、施設園芸：稲の苗を育てる（ハウス3棟）

《研修生受入》

4月より受入予定。見学可

《農法》

稲作：無農薬栽培（ジャンボタニシ）、減農薬栽培、慣行栽培、

畑：無農薬・無化学肥料、減農薬栽培。

自分で圃場整備をし、田を大きくしている。今年どれだけできるか
（11枚80a→1枚に、9枚70a→1枚に、
5枚54a→1枚に、3枚30a→1枚に）

《主な作付・生產品目》

ワラビ：生育中のため売却も食用もしていない。

畑：防府市の農業公社の仕事もしている。

《雑草への対処》畑/手取り

稲作：ジャンボタニシ除草、除草剤

《主な有機肥料・資材の種類》

稲作：パーク堆肥、鶏ふん

畑：鶏ふん、パーク堆肥、レンゲ、

《販売形態》友人・知人への直接販売、委託販売、

《販売品目》

食用米は、全量を自分で売却。

飼料米は秋川牧園に全量出荷。

《メッセージ》

良いことは分かっているけど難しい。出来ることからやればよい。

無理することはない。



自然農法で人々の暮らしや自然環境を守り、互いに思いやり、感謝し合いつつ、健康で明るい家庭作りをこころがけている。

《区分》 専業農家

《所属》 MOA

《従事者》 本人、妻

《面積》 水田 65a

《研修生受入》 不可

《農法》 MOA自然農法。

水稲ポット苗使用

《主な作付・生產品目》

水稲（コシヒカリ、ヒトメボレ）

《雑草への対処》

動力除草機、手押し除草、深水栽培

《販売形態》 JA、販売会社

《販売品目》

水稲（コシヒカリ、ヒトメボレ）

《現在抱えている問題》

圃場の排水対策、雑草対策、精米の黒斑点（カメムシ）。

なかざわみき
☆中澤美樹

「お米農家 中澤美樹」

〒754-0894 山口市佐山 2242

Tel:083-989-3100

e-mail: mks-wave@c-able.ne.jp



便利な環境に身を置いてみた結果、生きていくことに危機を感じたため、有機農業を始めました。全てが人間の都合のよいように仕組みられている世の中に身を置くことが嫌になったので、物事の本質を大事にして生きていくことにしました。有機農業、つまり農薬や化学肥料に頼らないでお米をつくり続けていくことは、自分の生き方、思想のあらわれなので、生涯続けていきます。

《区分》 専業農家
《所属》 山口環保研
《従事者》 家族3～4人、本人。
援農・雇用：春～秋、1～2人
《面積》 水田：20.4ha、畑 70a
《研修生受入》 本気なら可。
《農法》 無農薬無化学肥料栽培、
減農薬栽培

《主な作付・生産品目》

お米（無農薬は朝日・山田錦・餅、減農薬でヒノヒカリなど）。

麦（無農薬でハダカムギ、農薬を使ってハダカムギ）

《雑草への対処》

水田：緑肥すきこみ（菜の花）、米ぬか、深水、
冬期湛水。

《有機肥料・資材》 米ぬか、なたねかす、鶏糞

《販売形態》 個人直販、食堂、老健（介護老人保健施設）など。

《販売品目》 米、米粉、酒粕、麦

《将来めざしたい方向》

米づくりをやってみたいという子育て家族が3軒ほど、我が家の田の一部で手作業の米づくりをやっている。それが7~8軒くらいになったら、ガヤガヤと楽しいだろうな。その中から農家になる人も発掘できたらいいなあ。

《これから始めたい人や消費者へのメッセージ》

我が家は現在、洗剤をやめ、石鹸もやめつつあり、牛乳をやめ、明治、大正くらいの農村の生活の方へ意識をもっていき、自然とともに生きていたころの日本の暮らしを取り戻したいと、生活を少しずつ見直しています。手に入る中では最も古い稲である“朝日”を栽培して食べているのも同じ意味です。

【ブログ】「お米ちゃん日記3」です。

なかむら のぶたか
☆中村 進卓

「中村自然農園」

〒753-0831 山口県山口市平井 880-1

Tel:083-921-2751、fax:083-941-6245



有機農業は、EM 菌との出会いや、有吉佐和子の複合汚染、赤嶺勝人の出会いで衝撃を受ける。その後、環境蘇生塾での勉強会を経て農地管理の依頼を受け 10a から始めた。

命を維持するには食べることで、細胞を再生させ新しい細胞を健康に生まれさせるには安全な食べ物が必要です。そのためには自然界の環境に近い土壌での栽培、環境に負荷をかけず自然のサイクルを守る農業を広げる。

今現在の野菜や果樹は、成分分析表で昭和 26 年代の数値と比較すると、10%に満たないことに呆然とします。見た目の良さはすばらしいが、内容は寒気がする数値です。安全性や野菜本来の機能を取り戻し、健康な体を維持し、次世代へ命をつなぐ大切な食材を守り続ける責任を持ちたいと思いました。その思いや担い手を育て、社会に恩返しをしたいと思っています。

《区分》 専業農家

《所属》 山口環保研

《従事者》 本人、妻、研修生、パート 1 名、アルバイト学生。

《面積》 水田：1.23ha、
畑：60a

《研修生受入》 有機農業研修生受入れ可能。農の雇用制度適応（農業会議）。できれば 40 才以下で独立を目指している方が望ましい。

《農法》 水田：無農薬無化学肥料栽培、減農薬栽培。

畑：無農薬無化学肥料栽培

《主な生産品目》ニンニク、タマネギ、生姜、白菜、大根、南京、トマト、キュウリ、スイカなど瓜類。馬鈴薯、サツマイモなど芋類。人参、オクラ、その他あわせて53種類。

《こだわりの農法》

- ・コンパニオン・プランツや、酵素活用法での栽培。
- ・草堆肥と麹菌での土作り。
- ・ジャイアントケルプ活性液、土着菌・光合成細菌・EM菌・納豆菌といった有用微生物プログラム

《有機肥料・資材》

籾殻堆肥、雑草堆肥、醤油粕・コーヒ粕堆肥、液肥、アミノ酸堆肥、嫌気堆肥、好気堆肥、栄養生長専用堆肥、生殖生長専用堆肥、

《販売形態》

知人友人への直接販売、産直組織をもっている。

《こだわり・体験談》

海水と有機残渣素材での農業、旬で露地のみの農業で、農薬等は一切使用せずの安心安全できれいな商品を産み出す技術確立がもう少しで完成します。

《現在抱えている問題》

種で自家採種出来るものと出来ないものがあり、その土地特有の種の開発と選抜で優れた特性の農産物を再発見する事と次の世代に引き継ぐ技術の確立、採種→播種→成長→収穫→販売 栽培記録を参考に技術を提供して、種の保存と技術を伝えていく。F1より伝統の種を大事にしたい。

《将来めざしたい方向》

有機農業物は管理等時間も余分に必要だが広く、技術開放すれば一般価格と同じレベルでも経営が成り立つと思います。ただ消費者の意識は未だ低く、啓蒙活動で消費者を育てないと有機市場は広がらないので、安価で誰もが安全な物を手にできる市場を作る。

《これから始めたい人へ》

家庭菜園と業としての区別で勉強方法を区別する事。

《消費者へのメッセージ》

求める環境や、食の意味や価値感は自然に近い環境を保つこと。

《カンボ研への提言》

環保研から技術論発行各担当を決め各エキスパートと3年間くらいで作り上げる。

(有機農業理論大全) ○土作り技術、基礎、応用技術 ○種子採種記述 ○栽培技術
○管理経営技術 ○販売技術、市況解析、消費者開拓 ○教育、研修施設 ○世界の農業技術と実態紹介。○JGAP (ジェイギャップ: 食の安全や環境保全に取り組む農業に与えられる認証) の取得

のうみ ちゅうじ
能美 忠治

「白石山ファーム」

〒747-0341 山口県山口市徳地引谷 823-2

電話：083-927-1687

choosy.8068holy-bros@khaki.plala.or.jp



「食は命の根源」です。自分は最近その生命を支える”もの”を生産しているという重い責任を強く意識します。同じ思いで農業を目指す仲間が一人でも増えてくれるとうれしいです。

環保研の若手生産者部会に位置する「長州おいしん隊」に所属してその中の様々な才能や力の結集により、多くの農業者のかかえる問題である販路、いわゆる出口の心配はなくなりました。一方、メンバーの大半は一人農業者で生産現場のマンパワー不足による生産力の小ささは依然解決を見ない。そのためにはさらなる努力が必要だと思ふ。

《区分》 専業農家

《所属》 山口環保研、長州おいしん隊

《従事者》 本人

《面積》 水田：65a 畑：20a

《研修生受入》 研修・見学可

《農法》 畑：無農薬・無化学肥料栽培（有機 JAS 認定）、有機農業

《主な作付・生產品目》

ルッコラ、ズッキーニ、ミニパプリカ、ほうれん草（施設）、サトイモ、
ブロッコリー、キクイモ

《雑草への対処》畑：太陽熱養生処理、マルチ～ビニール、刈草

《主な有機肥料・資材の種類》畑：自家製たい肥（牛糞、刈草、もみがら、
米ぬか）、土壌改良材（微生物資材）

《販売形態》友人・知人への直接販売、産直組織・グループを持っている、業務店、
小売店との直接契約

《販売品目》ルッコラ、ほうれん草、ズッキーニ、ミニパプリカ等

《消費者へメッセージ》

値札を見ただけの単に他との比較で高い安いと金額を決めるのではなく、生産者の
思い、ストーリーをしっかりと見る目を持ってほしい。消費者こそ、そのための意識や
勉強が必要。

《将来めざしたい方向》

独立自営の夢、身内の後継者不在農地問題の解決。感情的には原風景である自分の
田舎が荒廃するのが忍びない部分で、さらには様々な「食の問題」や「環境問題」に
よる食、命への危機感。

農業技術の研鑽により表面的な有機農業でなく、高機能性食品としての野菜作りを
目指している。

「BLOF 理論」に基づく化学的データを利用した有機農業。

はらだ しょうあき
☆原田 正暁

「おさば有機農業研究会」

〒753-0212 山口市下小鯖 1171-5

電話：083-927-2061

harada.siyouaki@rose.plala.or.jp



添加物や遺伝子組み換え食品が増えている中で、消費者への安全・安心の農産物の提供が求められています。定年後、地元で耕作放棄地が増えており、地域再生に向け農業の大切さを実感し取り組み始めました。

農業は環境保全、食料主権を守るための公共事業であり、子供、孫、にも伝承していくこと。TPP が導入されると日本農業は崩壊する。若いお母さんが有機農産物を求めている姿に応えたい。人間として健康な体と家族の安全・安心を願い、紛争のない平和な社会をつくることである。健康な体作りの源は出来るだけ有機農法を一人ひとりが目指し取り組むことである。消費者と生産者が共通認識をもつことが大切だと考えます。

《区分》 専業農家、退職専業農家

《所属》 山口県有機農業推進団体協議会

《従事者》 11 人で構成、本人は副会長・事務局長兼任。

会長は徳本安弘

《面積》 水田/118a 畑/50a

《研修生受入》 研修可（見学程度）、市民農園を開設

《農法》 稲作・畑：化学農薬・化学肥料不使用栽培

《主な作付・生產品目》

稲作、露地野菜、キャベツ、白菜、大根、里イモ、マメ類、ホウレンソウ、ナス、スイカ、ウリ、タマネギ、ジャガイモ、サツマイモ、トマト。

《雑草への対処》

稲作：除草機（機械）、ヌカ散布（苗植付後）、ポカシ肥料を最初の代かき後散布し、草を防止する。

《主な有機肥料・資材の種類》

稲作：ポカシ肥料（ヌカ、おから）。

畑：ヌカ、鶏フン、もみがらを散布する。

《販売形態》

産直組織・グループを持っている、ネット、ふるさと出会い市に出荷する。



《メッセージ》

今こそ我々の組織の力を発揮することである。戦後食糧難の中、農産、畜産で、農業、化学肥料、遺伝子組み換え等、人類にとって危険な食料生産は、農業政策で進められてきた。学校給食でも同じで、子供たちも被害を受けている。特に 1000 種類以上の食品添加物や遺伝子組換えの加工食品を多量に食べさせられ、人間の体が蝕まれている。

ともに頑張りましょう！

ふくだ よしお
☆福田 嘉夫

〒747-0611 山口市徳地鯖河内 1347-2
電話：0834-54-0835



私達が子供の頃、肥料は主に堆肥（牛糞も混合）や草木灰であり農薬もさほど使用されてはいなかったと思う。当時の水田にはヤゴ、タガメ、ミズスマシ、秋には稲穂にイナゴ、バッタが沢山棲んで居り、小川にはドジョウやメダカ、エビ、ウナギ、そして数種類の小魚など生息していた。今想えばなつかしい忘れえない光景でもある。

豊かな自然環境で育った田畑でとれた作物の味もまた格別であった。

品質・生産性など収益を重視した現在の農業は、農薬・化学肥料は不可欠さえある。その結果、自然の生態系が破壊されている。少しでも「かつての自然の姿」を取り戻すことができれば、という思いでいっぱいである。自然生態系に戻したいと思う。

《区分》退職兼業農家
《所属》山口環境研
《従事者》本人
《面積》水田：7a、畑：3a
《研修生受入》研修不可、ただし山口県立大学生には、毎年地域共生演習で一部参加していただいています。
見学不可
《農法》
畑：無農薬・無化学肥料栽培、減農薬栽培、慣行栽培も。
休耕田：無農薬・無化学肥料栽培（カワラケツメイ）

《主な作付・生產品目》
カワラケツメイ、季節の野菜
《雑草への対処》
畑：手取り除草、草マルチ
《主な有機肥料・資材の種類》
畑：刈草、落ち葉（腐葉土）、発酵牛糞
《販売形態》
産直組織・グループをもっている。
《販売品目》カワラケツメイ

《メッセージ》

最近、目にした資料に「土のはなし」と題して、植物が健全に育つには、まず土を作ること。植物が気持ちよく根を張れる場所、居心地のよい土とは？とあり、ひとことで言えば、「森林の土」とあった。そう言えば森林の中に入ると落ち葉が幾層にも積み重なり、土に近い所を掘ると落ち葉が黒く朽ちて形がなくなっている。その中にはミミズ、カブト虫の幼虫等が沢山居る。微生物が居る事間違いない。よく父が、「ミミズが居るところは土が肥えている」と言っていた事を思い出す。

「有機肥料」と「化学肥料」は人間に置き換えると「口から摂る食物」と「栄養分だけ直接、摂る点滴」とも言われている。なるほどと思った。

まず自分で土をつくり、作物をつくり、味わう事。人間の五感で自然の素晴らしさを感じる事。そして消費者へ伝え、繋げる事。

少子高齢化・過疎化により農林業従事者がますます減少し、農山村での農林業による多面的機能が失われつつある。「食の安全・安心」を守ると同時に「かつての古き良き時代」を思い浮かべながら、少しでも取り戻せる気概を持ち続けることも大切なことではないのかと思う。

むらた ☆村田 たつお 竜夫
かずえ 和江

「半農でんでん」

〒747-0065 山口県防府市大字大崎 928 番地

電話：0835-27-0153

pataloha@carrot.ocn.ne.jp



微生物、雑草、虫達を大事にすることで自然に良い作物が出来る……と思っています。只々生物と稲を見守るだけです。

《区分》兼業農家（菓子製造、会社員）
《所属》山口環境研
《従事者》夫婦
《面積》畑/40a 水田/80a
《研修生受入》見学可、研修不可
《農法》稲作/無農薬・無肥料栽培
畑作/無農薬・無肥料栽培

《主な作付・生產品目》ソラマメ、枝豆、
エンドウ豆、小豆、大豆、サツマイモ、
ジャガイモ、サトイモ、トマト、ナス、
キュウリ、オクラ、大根、ハクサイ
《雑草への対処》稲作/無除草
畑作/無除草
《販売形態》直接販売、委託販売
《販売品目》米、玄米粉、焼菓子他

《メッセージ》 「お米作り基本方針」:

お米を食べる人間、田圃に生息する生き物達、どちらの食べ物も同じ場所の同じ材料……。極論は田圃の環境そのものを摂取していると考えます。

なので私と妻は、健全な田圃を目指し肥料、農薬、除草剤を施さず、稲と生き物達の成長を見守り、収穫出来たこのお米が、共感してくれる誰かの健康の一助となる事を願います。

田んぼは食べ物が創られる場所、自分たちが口にできない物を入れません。

田んぼは、河川、地下水、海に繋がっています。

腑に落ちない有機質肥料や外来生物を入れません。

只々、微生物、雑草、生き物達が自然に良い土を創ってくれるのを待ちます。

……雨の日もある風の日もある たまに晴れた日があれば丸もうけ……♪



《思い》

自分、家族、社会の健康をめざして。健康な社会。アトピーの改善(アレルギー体質)、病後の体質改善。野菜を多く食べること、そして、美味しさを求めて。

《区分》退職専門農家

《所属》MOA

《従事者》本人と主人

《面積》水田 12a 畑 12a

《研修生受入》不可

《農法》

MOA自然農法。無肥料栽培

《主な作付・生產品目》

大根、人参、ほうれん草、キャベツ、水菜、青梗菜、白菜、ニンニク、玉ネギ、ネギ、キュウリ、冬瓜、ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、豆類

《雑草への対処》

機械・手・チェーン・コートブラシ

《販売形態》

友人・知人への直接販売、委託販売

《販売品目》

《現在抱えている問題》

水稲の増収と除草、堆肥用の草の確保。

《将来めざしたい方向》

ネットワーク化をしたい。

《消費者へのメッセージ》

まず、食べること。そして、自分で確かめることです。

第2章 山口県西部：宇部市・山陽小野田市
・美祢市・下関市

ししど のぶゆき
☆**尖戸 宣之**
さち
佐智子

「尖戸農園」

〒754-0603 山口県美祿市秋芳町別府 1423

電話：090-5660-5210(宣之)

090-5054-5393(佐智子)



京都に住んでいたころから添加物や農薬等に疑問があり、さらに子供のアレルギーをきっかけに、他にも同じ様な思いや悩みを持つ人達がおられる事を知りました。安全・安心で美味しい物を作りたいと思い、妻の故郷の山口県に移住してきました。

2016年4月より美祿市秋芳町にて就農し、有機農業者の一員となれる様、頑張っています。

《区分》 専業農家

《所属》 山口環保研 長州おいしん隊

《従事者》 本人 妻

《面積》 1ha

《研修生受入》 不可

《農法》

水田：無農薬無化学肥料栽培、
原木椎茸栽培

《主な栽培作物・生產品目》

米、原木椎茸

《雑草への対処》

稲作：チェーン除草、アイガモン、
手取り除草

《販売品目》

米：朝日（玄米）、コシヒカリ（玄米）
原木椎茸

《販売形態》 友人、知人への直接販売

《現在抱えている問題》

これから水稻の機械・設備を揃えていく事です。

《将来めざしたい方向》

環境に配慮した持続可能な農業をめざします。

《これから始める人・消費者へのメッセージ》

宍戸農園の理念 [for the earth and our future] をもとに安全・安心な物を作っていきたいと思います。

しらお きみひろ
☆白尾 公廣
りょうこ
良子

「医王庵」

住所：下関市豊北町大字阿川 4184

電話：083-786-1468

e-mail: zat04205@nifty.com



戦後 70 年の間で急激な経済成長した日本の中で、田舎の田んぼでこつこつと作物を育て「水」と「土」を守ってきた『農業』。 経済成長の中で様変わりした農業のあり方を、古くて新しい「有機農業」がどうすれば地球環境が保全されるのか、どうすれば地球自然が再生されるのか、というような問題解決の糸口となるのではと、日々、地球に負荷のかからない農業、地球の喜ぶ農業、自然の法則に沿った農業を追求し、探求し、実践しています。

《区分》 専業農家

《所屬》 山口環保研、長州おいしん隊

《従業者》 本人、家族

《面積》 水稲 8 反、畑 5 畝

《研修生・見学受入》 見学可能です。あらかじめご相談下さい。

《農法》 無農薬、無化学肥料、無施肥の自然栽培

《主な作付・生産品目》

水稻：うるち米、赤米、黒米、緑米

畑：自然薯など

《雑草への対処》

水稻は、初期除草で竹箒などを使用し、その後は機械除草と手作業

畑は、主に畝に草マルチ

《販売形態》知人などへの直接販売と道の駅など店舗での委託販売

《販売品目》うるち米（朝日、栄光）、赤米、黒米、緑米、
自然薯（ヤマノイモ）

《メッセージ》

農業人口が激減する中で、田舎で土地を守りながら暮らす営み、そして次世代にバトンタッチの出来る「農」を体言しつづけていけたらと思っています。

田舎においても隣同士のつながりが希薄になりつつあります。「命を守る」ということを共通の理解にして地域がつながり広げていけたらと思っています。

なかもとひろゆき
☆中本浩行



《区分》退職專業農家
《所屬》MOA
《従事者》本人
《面積》畑/3a
《研修生受入》不可。見学は可能。
《農法》畑：無農薬無化学肥料。
MOA自然農法

「なかもと農園」

〒752-0936 下関市長府松小田南町 22-3

電話:083-245-3077

hn461115@yahoo.co.jp

自然生態系の維持、安心、安全な食べ物を作る。百姓としての原点ですね。カエルやミミズ、蜘蛛やテントウムシも大切な援軍です。人間もこのような自然生態系に生きていたら、虫など殺す薬は使えませんよね。以前の職場で農薬を使うと身体が悪くなるということを農家さんから直に聞かせて頂いたことから、実施しています。

政府は膨大な医療費を削減するために、保険機構を使って、メタボリックシンドロームや生活習慣病対策に乗り出しています。医療にかかるのはもっと後回しにして、それまで健康で長生きしたいと思うのならば、安心・安全な有機農産物をどんどん食べて、健康になって下さい。

《主な作付・生産品目》

大根、人参、小カブ、エンドウ、莢エンドウ、ほうれん草、春菊、ジャガイモ、トマト、玉ねぎ、聖護院大根、小松菜、三池高菜、ソラマメ、サトイモ、キュウリ、ナス、その他:ピーツ、バジル、スイスチャード、ラデッシュ

《雑草への対処》

手や鍬を使って取っています。取ったものは畝の上に置いて草マルチ、枯れれば畝と畝の間に置き、草が生えないようにしています。

《有機肥料・資材》

油粕、米ぬか、落ち葉、野菜の残渣

《留意や工夫》

動物性の堆肥、牛糞、豚糞、鶏糞は使わない。油粕、米ぬかでボカシ肥を作っています。

《販売形態》産直グループ、MOA 下関店

《販売品目》

大根、人参、小カブ、エンドウ、莢エンドウ、ほうれん草、春菊、ジャガイモ、トマト、玉ねぎ、小松菜、聖護院大根、三池高菜、ソラマメ、サトイモ、キュウリ、ナス

《有機農業を始めたきっかけ》

以前の職場で自然食に関わっていましたので、すこし家庭菜園を実施していましたが、退職を機に大きくしました。

《現在抱えている問題》

育苗、自然採種。

《将来めざしたい方向》

もう少し圃場が欲しい

《これから始めたい人へ》

健康で長生きすることを考えたとき、是非食事から変えてください。

《消費者へのメッセージ》

どんどん買ってください。すると生産者の励みになります。

にした たかし
☆新田 孝



「ファミリー農園」

〒759-6301 下関市豊浦町

電話:083-774-2643

7907heat@jcom.ne.jp

有機農業をはじめたきっかけは、農薬の使用により急激な生態系の破壊を経験し、微力でも昔の生態系を取り戻せるよう努力したいと思ったからです。

①生態系の回復 ②優良品質の農作物生産のための資材開発 ③水田ビオトープの回復、に努力してきました。

《区分》兼業農家

《所属》山口環保研

有機ネット山口西部

《従事者》本人、妻、子

《面積》

水田：100a、貸農園 20a

《研修生受入》

研修生受入れ可能。見学可能。

《農法》

水田：減農薬栽培、慣行栽培。

畑：無農薬無化学肥料栽培

《主な作付・生產品目》

白菜、ブロッコリー、タマネギ、サツマイモ、その他四季の野菜

《雑草への対処》

水田：手押し除草機、ジャンボタニシ除草、手取り除草。慣行栽培は除草剤。

畑：手取り除草、草マルチ。

留意点は、水田・畑ともに、米ヌカボカシに有用な資材を入れ用いること。

《有機肥料・資材》

水田：米ヌカボカシ、落葉、モミガラ。

畑：米ヌカボカシ、落葉、モミガラ

《販売形態》友人・知人への直接販売、朝市。

《販売品目》米、野菜。

《現在抱えている問題》

- ①有機農産物の付加価値を消費者に理解してもらう
- ②農産物の販路拡大 ③農作物に有効な有機資材の開発

《将来めざしたい方向》

農業を生業とした生活を送ること。

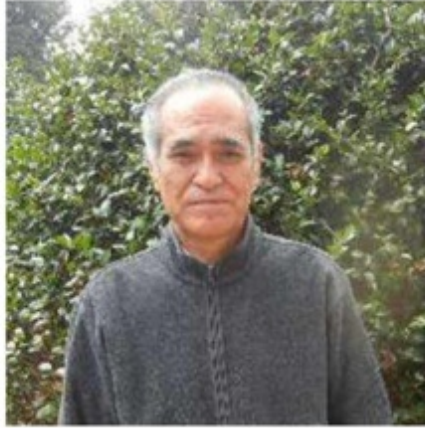
《これから始めたい人や消費者へのメッセージ》

有機栽培と慣行栽培を見分ける目を養い、その違いを五感で体験して下さい。

《環保研へのご意見ご感想、今の社会の状況など》

6次産業に係る講習会・取り組みを実施し、有機農産物の付加価値を高め、消費者にアピールする取り組みを行う

ひがともやす
☆比嘉 朝康



【農業従事者】1人
【所属】山口環境研、有機ネット山口西部
【耕作面積】農地13a 山50a
【栽培品目】野菜全般 シイタケ
【農法等】 農薬・化学肥料・除草剤を
使わない農業
【主な肥料・資材】牛フン堆肥等

「比嘉楽農園」

住所：〒757-0003 山陽小野田市大字有帆 529-9
電話：0836-84-0422
携帯：090-7121-1697
メール：tomoyasu@mx51.tiki.ne.jp

急激な生態系の破壊が起きています。
有機農業によって、それを少しでも元にもどすように努力したい、という思いから、有機農業をはじめました。

【主な作付・生產品目】

シイタケ (290) タマネギ、キュウリ、小芋、
スナックエンドウ、ナス、サニーレタス、
ミヨウガその他四季の野菜多数

【雑草への対処】手取り除草

【病害虫への対処】手取り

【販売品目】シイタケ、野菜

【販売形態】朝市、直販



▶ 有機栽培へのこだわり

①生態系の回復、優良品質の農作物生産のため資材の開発。

②消費者への有機農産物への理解。

▶ 現在の課題

①有機農産物の生産技術の取得。

②消費者・慣行農業者への有機農産物の理解。

▶ 消費者へのメッセージ

有機栽培と慣行栽培の農作物を見分ける目を養い、その違いを五感で感じてください。

▶ 有機ネット山口西部への提案

一般市民・行政・農協・第三次産業等各界の人が有機農業を理解し自然生態系の保全や健康に暮らす食への関心を広めるべく活動すること。



ほりの たみお
 ☆堀野 民生

「株」山口茶業」

〒754-1314 山口県宇部市大字櫛原 152-13

電話 0836-64-2116 0836-64-2044

メール: horino@onocha.com

お茶を作っています。茶の樹勢が自然に戻り、益虫が発生し、害虫駆除につながる。また、味や香りがお茶本来の姿になる。これは土質の成分が茶葉に反映される。身体にやさしくて健康的になるためには安心できる栽培によって得ることができると考えています。太陽の光を浴びた野菜や農作物を食べましょう

《区分》事業所

《所属》山口環境研

《従事者》本人

《面積》畑 2h 借受地（茶畑）3ha

《研修生受入》見学可、研修不可

《農法》畑作：無農薬・無化学肥料

《主な作付・生産品目》

茶畑、オリーブ樹

《雑草への対処》

畑作：草刈り機・手動

《販売形態》

直接販売、卸販売、通販、ネット販売

《販売品目》釜炒り茶

《メッセージ》

農薬・化学肥料を使わないで栽培した茶葉を鉄釜の直火で炒って、釜炒り茶を製造して5年目です。古式製法の手のかかるものですが、「釜香」の風味は郷愁をさそうホットする飽きないお茶です。離農される茶農家から借受けた茶畑を維持しつつ、新たな茶作りに本格的に取り組んでいます。29年5月より産地面積を増し、乗用型の刈り取り機を導入して生産性を上げていく計画をしています。

新しい茶作りにご興味のある方はお問い合わせください。社長



還暦を期に少し人のお役に立ちたいと思い、近所の休耕田を借りて20年9月よりMOA自然農法（自然順応、土の力を生かした栽培）で、生命力の強い野菜作りを始めました。

《区分》家庭菜園

《所属》MOA

《従事者》本人 草刈りは主人

《面積》畑 9a

《研修生受入》不可

《農法》MOA自然農法。農薬、化学肥料、除草剤不使用。植物性堆肥使用。動物性堆肥不使用

《主な作付・生產品目》

ネギ、玉ネギ、ジャガイモ、サツマイモ、グリーンピース、人参、大根、トマト、ナス、ピーマン、カボチャ、コンニャク、各種葉物。

《雑草への対処》手作業

《販売形態》産直組織・グループを持っている。委託販売。調理教室での使用。

《現在抱えている問題》

土づくり、草取り、夏場の水不足、用事が多くて畑にかかわる時間不足。

《将来めざしたい方向》

土作りに力を入れていきたいと思っている。

《消費者へのメッセージ》

貴方とご家族の健康のために、野菜作りを実施されるといいですね。プランター1つからいかがでしょう。家庭菜園セミナー、健康になるためどんな食品をどのような調理の仕方をしたらよいのかを学ぶ食育講座もあります。皆さんの御要望にお答えしております。

第3章 山口県北部：長門市・萩市・阿武町

「(株) 百姓庵」

いのうえ ただし
☆井上 義

〒789-4623 長門市油谷向津具下 1089-1

電話・Fax : 038-734-0377

hyakusho_an@ybb.ne.jp

http://hyakusho-an.com.



美味しいものを食べたくて有機農業を始めました。

塩屋（海水からの塩づくり）をしているので、ニガリをたくさん使用した農法に取り組んでいます。

私たちはその名の通り、百の姓を持つことを目指しています。「必要なものは自分たちの手でつくる」この考えをもとに、なんでも楽しみ、それを「糧」として生活しています。仕事は暮らし。暮らしは遊び。遊びは仕事。「仕事＝暮らし＝遊び」となるように、ビジネスの分野と自給自足の分野の両立を目指しています。

《区分》 専業農家

《所属》 山口環境研、

《従事者》 本人

《面積》 水田：40a 畑：40a

施設園芸：10a

《研修生・見学受入》

可、研修生

《農法》

稲作：無農薬・無化学肥料栽培

畑作：無農薬・無化学肥料栽培

《主な作付・生産品目》

稲作：米

畑作：トマト、ニンジン、オクラ、大豆

《雑草への対処》

稲作：醤油粕、にがり

畑作：手取り除草

《販売形態》

道の駅、ホテル、レストラン

《販売品目》

トマト、ニンジン、オクラ

《現在抱えている問題》

イノシシ対策、年々増加する休耕田の活用方法、後継者不足。

《将来めざしたい方向》

雇用できる農業をめざし、企業として自給自足したいです。

《これから始める人へ》

自分で米を作る喜びを取り戻しましょう。

「中野農園」

なかの きよし
★中野 喜美

住所：〒759-3113 萩市江崎
電話：08387-2-1781



《農業に取り組む思い》

自然環境、自然生態系の保全と、自分と家族、食べていただく消費者の健康を願っています。

無肥料栽培を地域社会に伝えたい。

無肥料栽培農産物の味は人生の楽しみを増すものです。人の味覚は変化するので、無肥料栽培農産物を継続して食べると、農産物本来の味わいを感じられるようになると思います。農産物に肥料分があると苦みが残りまじです。

健康を考える人は無肥料農産物を食べてください。

《区分》退職專業農家

《所属》MOA

《従事者》本人、妻

《面積》水田 40a、畑 30a

《研修生受入》不可。

《農法》MOA自然農法、岡田茂吉先生提唱の無肥料栽培をめざす。

水田：無農薬・無肥料栽培

畑：無農薬・一部ボカシ肥（米糠、油かす）使用

《主な作付・生產品目》

米：コシヒカリ、ヒノヒカリ、寿モチ

野菜：サツマイモ、サトイモ、大根、キャベツ、ブロッコリー、インゲン、ナス、キュウリ、ピーマン、スイカ、メロン、ズッキーニ、トウモロコシ、オクラ、万願寺トウガラシ、大豆（黒、白）

《販売形態》量販店、食堂

《販売品目》米、サツマイモ、サトイモ、大根、キャベツ、ブロッコリー、インゲン、ナス、キュウリ、ピーマン、他

《雑草への対処》

水田：動力除草機、手押し除草、手取り除草。

畑：マルチ使用。ホー、トラクターによる耕耘。

《現在抱えている問題》

借地であること。

イノシシ等の獣害。

無肥料種子の入手。

農地がやや遠距離にあること

《将来めざしたい方向》

無肥料栽培による連作（畑作）。自家採種。

《これから始める人へ》

販売先を確保すること。食べる人の健康を考えて資材を使ってください。

なかのしげき
☆中野茂樹

ファーマン カモメ
「Farming Kamome」
〒759-4401 山口県長門市日置上
Tel:080-5621-5087
nouka-tane@hotmail.com



よく聞く言葉では、自然農法や自然栽培と呼ばれるものになりますが、これを深く理解する中で、自分の取り組みに関しては「自然」という字のもともとの読み方である「自然(じねん)」が最も、この農法にふさわしいと思い、個人的には「自然(じねん)農法」と呼ぶことにしました。

無施肥・農薬不使用での栽培は、特別なものではなく、自然の成り立ちに目を向ければ、ごく当たり前のものです。これに取り組みたい方が苦勞することなく、誰でも実現できるものとできるよう、日本の農地の基礎・基準を見つめ直し、今後の農業に貢献したいと思い取り組んでいます。

《区分》 専業農家

《所属》 山口環境研

《従事者》 本人

《面積》 畑：170a、水田：30a(長門市自然栽培米研究圃場として実施)

《研修生受入》

可能ですが、現時点では新規就農者への、補助制度の受け入れ農家には当てはまりません。見学や週1回といった、あり方での研修は受入可能です。

《農法》 自然(じねん)農法

《主な作付・生產品目》

稲、ミニトマト、マクワウリ、カボチャ、インゲン、蕪など。

《雑草への対処》

稲に関してはチェーン除草、またドジョウ抑草の効果を試験中。

野菜に関しては、必要に応じて草刈機で刈る。

《有機肥料・資材》

落ち葉・草からつくる自然堆肥を使用。

《販売形態》 産直グループに出荷

《販売品目》 生產品目と同じ

《現在かかえている問題》

とにかく土地の基礎条件が悪い。でもそれは、空いている土地を借りる限りは当たり前のことで、そういった問題を如何にして、早くクリアしていくか、方法を確立していくかが問題。

《これから始めたい人や消費者へのメッセージ》

ある事をきっかけに、「この食べ物は体に良い・悪い」ではなく、もっと根本的な「食べ物であるものと、そうでないもの」の違いに気づく事が出来ました。

食べ物と共に、今後はそういった情報もお届けできるよう、絵本を計画中です。

- 第4章 山口県東部：岩国市・和木町・柳井市
- ・周防大島町・上関町・平生町・田布施町
 - ・光市・下松市・周南市

うらかみ たくみ
☆浦上 卓三

「周防大島を有機の島にする会」

〒742-2805 大島郡周防大島町大字東安下庄 657-3

電話 0820-77-1058 FAX 0820-77-2267

fuku-otoko.16.8.3@ezweb.ne.jp Facebook 有



50年前の1966年、25才で「山岸会」に接し、「生き方」と共に環境問題に関心を持ち始める。その後EMを知り「瀬戸内海の再生」活動を始める。

瀬戸内海を、化学肥料、農薬、下水処理水を放水する前に使用する塩素が「魚も棲めないきれいな海」にした。

2014年に「周防大島を有機の島にする会」設立。

《所属》 周防大島を有機の島にする会」会長。山口環境研

《従事者》 本人、妻

《面積》

《研修生受入》

《農法》 畑作/有機の家庭菜園を少しだけしている

《メッセージ》

私は「周防大島を有機の島にする会」の会長です。私はパソコンができませんが、会としてフェイスブックのページができ、その写真です。会員は30名ほど。

また「周防大島のオーガニックな仲間たち」の小冊子ことができました。この内容について公表することは、個人の許可をいただいていません。もうしばらくお待ち下さい。

なお、会員の宮田正樹さんは、この本に載っています。

☆おだ 小田 耕三
こうぞう
みさこ
美沙子

〒743-0012 山口県光市千坊台 1-6-12
電話：0833-78-2674
xygqb935@ybb.ne.jp



定年退職後、山口へUターンしました。鮎養殖の現場で、EM 活性液を活用して魚病対策や水質浄化の効果を見せているのを見て、これを農業で試したくて自然農法の研修を始めたこと、平生町の大下さんの稲作不耕起栽培の研修に参加したことがきっかけです。百姓木村さんの指導をうけて。

《区分》 退職専門農家
《所属》 山口環境研
《従事者》 本人、
妻（美沙子）
《面積》 水田：110a
畑：8a
《研修生の受入》 なし
《農法》
無農薬・無化学肥料栽培

《主な栽培作物》
水田：稲。畑：ダイコン、白菜、キャベツ、サトイモ、ジャガイモ、カブ、チンゲンサイ、人参、トマト、キュウリ、大豆、カボチャ、サツマイモ、タマネギ、イチジク
《主な有機肥料・資材の種類》
EM ポカシ、カキ殻、生石灰、牛糞、鶏糞
《販売品目》
玄米、白米、味噌、イチジク、イチジクジャム

《有機農業を継続するこだわり》

消費者との信頼関係の維持を大切にしています。

《実施している農法について》

ポット苗作りは共同作業で行っています。

ジャンボタニシの活用によって、除草剤・農薬の一切を使用していません。

きむら せつお
★木村 節郎

「楽笑共生ネットワーク百姓・木村」

携帯 090-2003-0690, 0820-52-1390 FAX0820-52-1390
〒742-1515 山口県熊毛郡田布施町上田布施 2582

生かされてるよろこび。みんなと共に、地域と共に生かされたいネ。地域の中の自分の存在です。地域が変わる仕組み作りに興味があります。

田布施地域交流館は、低硝酸野菜への取り組みを、今回コメにも適応する試みをスタートします。田布施は田んぼ作付けの7%くらいは、化学肥料も農薬も使わない稲作がされています。ジャンボタニシのおかげです。



共同で苗作り

《区分》 専業農家

《所属》 山口環保研、田布施地域交流館、田布施町観光協会、古代ロマンを夢見隊、楽笑共生ネットワーク、消防団、まちづくり推進協議会、西の寺子屋、学校支援員

《従事者》 本人、妻

《援農・雇用》 グループで育苗等(ポット成苗)

《面積》 水田/500a 畑/10a

《研修生受入》 研修生、受け入れ可。本気で独立して農業(田んぼ)を田布施でやる人を探しています。土地はこれからあり余ってきます。

《農法》 稲作、畑作ともに無農薬・無化学肥料栽培
《有機肥料・資材》

稲作: ケイフンの EM ポカシ肥料を購入、ヒューマス購入 畑作: ポカシ、ヒューマス、米ぬか、もみ殻

《主な栽培作物・生産品目》

休耕田作目: カボチャ(遊休地で) 量生種、草の上でもすご〜くはびこります。

畑作: 自家用野菜いろいろ。主に母が作る。

《販売》 米、米粉、もち米粉

《雑草への対処》

稲作: ジャンボタニシと共生

畑作: マルチ及び手取り

《販売形態》

友人・知人への直接販売。お店・直売所で販売。産直組織・グループを持っている。インターネット(やまぐちきらら特産品)

《留意や工夫》

稲作：初期成育が悪い草の分解等にチッソ成分をとられるため、補う事また発酵資材補充も兼ねて EM ポカシを入れています。今後は土地がら海ミネラルがうまく使えそうなのでトライしたい。

畑作：抑草を兼ね、もみ殻を使用。そのうち分解するでしょう。20 数年、約 30 年このやり方できたほどです。

《現在抱えている問題》

女房と 2 人だと、だんだんと体に無理が効かなくなって来ています。草刈りが重荷になっており、国営の圃場整備が進む中で、中間管理機構に 10 年間借りるとなるとなかなか手が挙げられません。後をになう人材育成。有機の農ある暮らしがしたい人を支えられる人材が無くなると、せっかく今まで築き上げて来たものがだめになります。



「田んぼアート」 田の稲刈り

《将来目指す方向》

独立し、後継となる人を、今さがしています。5 年間で技を身に着け、10 年目に完全独立してほしい。僕はみんなの育つのを見守りたいです。

《これから始めたい人へ》

研修をやりたい人へ。農機具そろってます。作業場用地ございます。工作技術も教えます。思い込みという「頭のネジ」のはずし方も教えます。公への対応の仕方も教えます。本気の人だけ来てください。くわしくは Facebook でよ〜〜く僕を知って来て下さい。まともじゃありませんヨ。お楽しみレジャー農学もいい。半農半 X もいいけど本気百姓がこの国には必要だと思う。レジャー農学も半農半 X 組も面倒みれる仕組みは必要だな。

型にははまりたくないし環境研自体が大きくなる必要は感じてない。連絡連携機構でいいのではないかな？ 5ha 作っているけれど僕のは国が言ってる農家にはなれていない小規模自営農だよ。こんなレベルが多く集まったのもいいのではと思っています。

くにもとえつろう
☆ 國本悦郎

〒742-1514

山口県熊毛郡田布施町別府 321

0820-55-5150

etsuro-k@mx5.tiki.ne.jp Facebook



食の安全を突き詰めたく、有機農業を始めました。いろいろな本を読んでは試行錯誤していますが、これという農法はありません。いくら忙しくても種から育て、収穫しています。できれば採種して、循環させたい思いがあります。

田舎でも子ども二人連れの標準家庭で、200万円/年の生業を持っていて、1反の田んぼと1反の畑、1反の果樹園、ハウス兼用の農業倉庫、1町の山があれば、有機農業により、自給と販売とで過疎の地でも生活が十分にやっつけられることを証明して行きたと思っています。現に、古民家と不耕作地を探していけば、過疎地にそんなところはいくらでもあります。それに手を付けようとしなからいつまでも改善しないのではないのでしょうか。

《区分》半農半Xで、Xの部分ではまちづくりの活動が主です。

《所属》山口環保研

《従事者》本人

《面積》

畑：借用しているのは1.8aで、実際に耕作しているのは0.7a程度です。

施設園芸：主にブルーベリーですが、四季折々に収穫できるよう果樹の種類を増やしています。

《研修生受入》 私個人では受け入れはできません。しかし、このままでは過疎化は進むばかりとなりますから、私の住む有機農業で実績を上げている自治会では、U・I・J ターン者を受け入れる組織を結成する運びになっています。そうなれば、研修生の受け入れは勿論、有機農業を手掛ける多くの移住者をあっせんすることもできます。（見学の受け入れは可能です。）

《農法》畑は完全無農薬、無化学肥料で、安全で安心、しかも美味しい低硝酸化野菜の栽培を進めています。

《主な栽培作物・生産品目》

畑作：多品種少量栽培で、一通りの作物を栽培しています。葉物は虫が付いて商品とならないので、自家用のみの栽培となります。販売できる根菜類と豆類を多く作っています。

《雑草への対処》

草刈り機で刈って、糠や油かすと混ぜて肥料にしたり、畝のうえに置いて草マルチをしています。

《有機肥料・資材》

油かす(主)、発酵牛糞、糠、海藻、発酵液(葉面散布)、燐炭・木炭、竹パウダーなどを使用しています。

《販売》 豆類、ジャンボニンニク、里芋、ブルーベリーなどの他、自家用と友人・知人への直接販売以外で余った苗を交流館(直売所)に出荷しています。

《販売形態》

友人・知人への直接販売と交流館への出荷です。

《留意や工夫》

豆を作った後は、不耕起のままでは根菜類を作っています。他の野菜の場合は、作った後に糠を撒いて4,5日置き、漉き込んだり、枯草や稲わらを土の中に入れていきます。害虫の忌避には竹酢液や木酢液も使用しています。畝間の溝に枯草を置き、早く肥料として使えるようにもしています。

《現在かかえている問題》

半農半Xの、Xであるまちづくりの活動が拡大し、農の部分が縮小してなかなか手が回らないことです。

《これから始めたい人へ》

外に出て作業することが好きな方なら、いくらでも前途が拓けると思います。地域の人の中に溶けこんでやっていける人でないと孤立してしまいます。

《消費者へのメッセージ》

安全で安心、しかも美味しい野菜や果物を実際に食べることから始めて下さい。違いが分かるはずですよ。

なかはま りょうたろう
☆中浜 良太郎

「中浜農園」

〒740-0321 岩国市入野367

電話：080-3882-3040

fkspnakahama@gmail.com



環境にいいことをしなくて、有機農業にたどり着いた。全ての農場で、化学農業や化学肥料を使用していない。自然環境を守りながら安心安全で人の健康に貢献できる作物づくりを続けたい。

《区分》 専業農家

《所属》 山口環保研、
長州おいしん隊

《従事者》 本人

《面積》 水田：80a 畑：220a

《研修生受入》 研修・見学可

《農法》 有機農業（JAS 有機対応）

稲作：無農薬・無化学肥料栽培 畑：
無農薬・無化学肥料栽培

《主な作付・生産品目》

人参、自然薯、ミニトマト、オクラ、ゴボウ、
スティックセニョール、大根、キュウリ、
小麦、大豆、小豆、ナス

《雑草への対処》

稲作：チェーン除草、田車

畑：手除草（三角木） 太陽光養生

《主な有機肥料・資材の種類》

稲作・畑：自家製米ぬかボカシ、酒かす肥料、
ヒューマス、えひめAI、海藻、竹パウダー。

《販売形態》

友人・知人への直接販売、産直組織・グループ
を持っている、委託販売、マルシェイベントへの出店。

《販売品目》 米、小麦、野菜全般

《将来めざしたい方向》

農業の6次産業化で農産品加工まで手掛ける。

H28年4月、弁当・漬物・ジャム・ひら餅の食品加工を開始。

H28年11月、直営農家レストラン『月城丸』を開店。

農業体験や食育イベント等を行い、農や食に触れる機会を提供する。

研修生や従業員を雇い、次世代の有機農家を育てる。

「農業は楽しい!!」この一言に尽きます。

一緒に農業を盛り上げましょう!!

ふじい えつお
☆藤井 悦男

住所：周南市小畑山
電話：0834-62-5333

無農薬に近い野菜を自分も食べたい、消費者にも食べさせたいということから有機農業を始めました。

《区分》退職専門農家
《所属》山口環保研
《従事者》本人と妻
《面積》畑：20a 水田：78a
《研修生受入》
研修不可、見学可
《農法》
稲作：減農薬栽培
畑作：減農薬栽培

《主な作付・生產品目》
ゴボウ、白菜、ナス部会にて共同出荷、
人参、ゴボウ、ハウレンソウ、ネギ、
枝豆、白大豆、黒大豆
《雑草への対処》
稲作：除草剤を散布する。
畑作：時々除草剤を使用する。耕運機
で草と一緒に鋤き込んで、1か月ごと
に植えるようにしている
《販売形態》
農協への出荷
青果市場とJA生直と直売

《メッセージ》

退職後に、EM菌に興味を持って環境農業グループに入り、講演やグループ等の体験を聞きに行きましたが、結果的には、それぞれの地域によって問題点が違うことに気づき、解決には至らないまま、長くやってきました。

最終判断としては、自分の所・地域は自分が守る意外はないのだと判断して、減農薬農業に取り組んでいます。退職後20年になりますので、このままがんばって行きます。

ふじい ゆうじ
★藤井 右治

「里山ひよじ村」

〒742-0427 岩国市周東町樋余地184-1

電話 0827-86-0477

<https://hiyoji.jimdo.com/>

里山の自然と共生し、安心安全な食べ物を作って食べることを目的に集まった生産者仲間（専業・兼業；6名のうち2名が新規加入者）で、無農薬・無肥料の自然農法による農業をおこなっています。メンバーは老若男女、職業も様々ですが、空いた時間、休日を利用して自主参加しています。



《区分》専業農家、兼業農家

《所属》山口環保研

《従事者》里山ひよじ村 村民

《面積》畑/200a 水田/120a

《研修生受入》研修生に十分な研修ができるとは思えない。一緒に実習しようという人は受け入れている。

《農法》

稲作/無農薬・無化学肥料栽培、

畑作/無農薬・無化学肥料栽培

《主な作付・生産品目》稲、牧草、菜種、クローバー、麦、大豆、小豆、トウモロコシ、エゴマ、ブルーベリー

《雑草への対処》

稲作/米ぬか、チェーン、除草機

畑作/中耕除草、刈取り

《販売形態》友人・知人への直接販売

委託販売

《販売品目》米、麦、大豆、みそ

《始めていること》

農業生産体制（農業法人化）

- ・ 専業・兼業での自立経営農家の育成
- ・ 農機具共同センターの設立
- ・ 有畜複合農業形態へ向って
- ・ 農産加工

《産・消提携のかたち》

里山ひよじ村を自給圏として、生産体制はできつつあり、それを支えるのは、安全な食を求める消費者である。その提携のかたちは、現在多様なかたちになっている。里山ひよじ村はどのようなかたちを創れるか。古い時代の“市場”から考えてみようと思っている。

《あなたも仲間になりませんか》

里山ひよじ村では、イベントでの出店販売や、農作業体験を行っています。日本の「結（ゆい）」の考え方から、みんなで協力して作業をすることの大切さ、収穫の喜びをともに祝う行事をしています。食べる物を「買う」から、「作る」体験をしてみませんか？



まつだ かずひこ
☆松田 和彦

「和敬農園」

〒745-0622 周南市大字樋口 1130 番地

電話：0833-91-1139



土づくりにおいては、微生物が土を作ってくれている。太陽の恵みで自然に作物ができる。これは自然界の理にかなっている。

これから有機農業を始めたい人は、自家用から始めればできると思う。

《区分》退職専門農家

《所属》山口環境研、

周南なずなの会

《従事者》夫婦

《面積》畑：7a 水田：70a

《研修生受入》見学可、研修不可

《農法》

稲作：無農薬・無化学肥料栽培

畑作：無農薬・無化学肥料栽培

《主な作付・生産品目》

米、野菜（大根・白菜・玉ネギ・ジャガイモなど）

《雑草への対処》

稲作：ヒエ：深水管理（10cm～15cm）

コナギ等には、米ぬかペレット散布（田え後すぐに）。

畑作：手取り除草

《販売形態》友人・知人への直接販売

《販売品目》米

《メッセージ》

お米は「こだわり米」。種もみを、薬を使わず 60°Cの温水に7分間浸ける処理をしている。ヒエは深水(10~15cm)で生えてこない。コナギ等は無農薬10年で少なくなった。

今では田んぼに、カルガモが卵を産み棲みつくようになった。

みやた
☆宮田
まさき
正樹
きみこ
喜美子

「野の畑 みやた農園」

住所：〒742-2804 山口県大島郡周防大島町日前 1368

電話：0820-73-1750

e-mail nonohatake@sea.icn-tv.ne.jp



《有機農業への思い、きっかけなど》

小さい時から自然の中で遊ぶことが好きで、大人になるとそれは、生物や農業への関心へ変わりました。そして、自然とそれが仕事になりました。農業をする中で、植物、微生物、虫などがそのまま存在する畑で育った野菜は、美味しい！その実感が有機農業、自然農への確信になり、現在に至っています。命あふれる畑で育てたい、そういう想いから農薬・化学肥料は使っていません。また、身の回りにあるもの、取れるもので育てたいので、現在は海藻、海水、竹チップ、竹炭、米ぬか、おから、醤油粕、EM（周防大島町給付）、魚のアラ等を使っています。

《区分》 専業農家

《所属》 周防大島を有機の島にする会

《従事者》 本人・妻（喜美子）

《面積》 畑 55a 田 7a

《研修生受入》 現在なし

《主な作付・生産品目》

ミニトマト・キュウリ・長ネギ・サトイモ等

《雑草への対処》

基本的に生やす。作物より大きくなりそうな段階で刈る

《販売形態》 宅配・流通業者委託

《販売品目》

多品目の野菜・トマトジュース

《農法》

・不耕起・露地栽培

・化学肥料・農薬は使用せず

・肥料作りは、島にあるものを使って自家製造しています。今後は徐々に肥料の種類も減らしていきたいと考えています。不耕起なので肥料は基本、畝の上に蒔いていきます。定植の時には「畑の土と竹炭とボカシを合わせ再発酵させたボカシ」を植穴に入れます。海藻も直接畝の上に置きます。

海水はボカシに混ぜたり薄めて葉面散布に使います。

《現在抱えている問題》

- ・販売先を増やしたい。今年（2017年）からは野菜BOXの宅配を始めます。今は、その事業の宣伝、集客をしています。事業として安定させたいです。
- ・また、ひとつ開墾します。開墾したばかりの畑は、土の素性がわからず苦労します。
- ・一つ一つの畑で土の性質、日当たり等が微妙に違います。それぞれに適した作物を模索中です。見当違いも時としてあり、1年1年が勉強です。
- ・露地栽培での、干ばつ等の対策
- ・適正価格での販売先確保

《将来めざしたい方向》

- ・大型農業や慣行農法とは、違うフェイスツウフェイス、対等の関係を構築していく農業。
- ・無農薬野菜、新鮮野菜を食べたい人にローコストで届けられる仕組み作り

《これから始める人へ》

- ・自分の野菜を誰に届けたいかを明確にすると良いと思います。
- ・移住した場合などは、自治会にとけこもうとする努力は大切だと思います。
- ・一人で問題を抱え込まずにいろんな人に協力を求めて欲しいです。

《メッセージ》

瀬戸内海の暖かい太陽と潮風を浴びて、たくさんの命（植物、虫、微生物、菌）の中で野菜が育っています。その姿は、スーパーなどに並んでいる野菜と違って武骨です。でも、野菜本来の味がしています。そういう野菜も求められ、届けられ、農家が適正価格で販売でき、だれとも平等、対等に関係が築け、農業が希望の職業になればいいなと思います。

やすだ よしお
★安田 善雄

〒740-1225 山口県岩国市美和町渋 1353
電話・Fax : 0827-96-1232、
e-mail: yasuda@kmj.biglobe.ne.jp

土壌組成・有機物、微生物の種類や量を土壌内生態系との関わりの中で科学的知見に基づいた有機物農業を行ってみたいと思っています。

《区分》退職兼業農家
《所属》山口県環境研
《従事者》本人 妻
《面積》畑：8a、
施設園芸：40 a
《研修生受入・見学》不可
《農法》
畑作:減農薬栽培、慣行栽培も
あり

《主な栽培作物・生產品目》
トマト、キュウリ、玉ねぎ、ジャガイモ、
大豆等
《雑草への対処》
手取り除草
《有機肥料・資材》落ち葉、籾殻、炭、
残飯
《販売品目・販売形態》
自家消費、将来は販売も

《こだわり》

地元で取れる食料や堆肥(落ち葉、残飯、炭)、エネルギー(バイオマス)を地産地消することが、地域の雇用を生み、地域の活性化につながると考えます。

《現在抱えている問題》

有機農法のための土壌改良方法、土壌分析、微生物分析等を指導して頂ける方を探しています。

《将来めざしたい方向》

- 1) 岩国市の有機農家を5%まで増やしたい。
- 2) 有機JASの取得を目指す

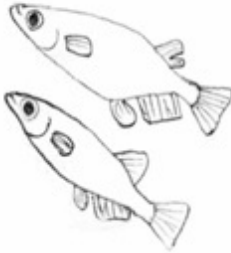
《メッセージ》

これからの日本の農業は、その地域の特産物(岩国の場合はレンコンや、岸根栗)を有機農法・無農薬で育て、それを加工して付加価値を付け、他県や他国から収入を得るのがベストだと思います。そのためのシステムづくりは大変ですが。

「EM めだかの学校」

やまもと ち え こ
☆山本 千恵子

〒745-0853 周南市上村113
0834-62-1618
yhc00164@nifty.com



「自分たちの健康は、自分たちで守っていこう」と新たな決意で、「旧めだかの学校」から農薬大嫌いなメンバーが飛び出して、新「EM めだかの学校」を作って2年経ちました。最初の「めだかの学校」からは20年近くになりますが、病害虫に悩んで慣行農法に戻っていく人もいたり、初心にかえっての再出発です。自然とのお付き合いは、山あり谷ありで一筋縄ではいきません。けれど、やっぱり、人間の浅知恵より、自然の大きな営みこそが命の知恵袋のような気がします

《区分》家庭菜園グループ
《所属》山口環保研
《従事者》本人と娘 その他、菜園グループの各々が自分の畑で野菜づくりをしています。
《面積》畑7a
《研修生受入》不可
《農法》

《主な作付・生産品目》
ダイコン、コマツナ他
《雑草への対処》手取り
《販売形態》委託販売
《販売品目》サツマイモ、レタス、チンゲンサイ、レモン、他。

《有機農業を始めたきっかけ・理由》

家庭から出る生ゴミ処理を考える中で、生ごみが素晴らしい畑の肥料になり、かつ、化学肥料や農薬を使わない安全な野菜を育てることが、誰にでも出来ると気付いたから。一方で、病気などの原因は食べ物にあると、かねてより思っていたため。

《こだわり・体験談》

最近、人の脳も腸内環境に左右されるとよく言われます。頭にいろいろな情報を蓄え、あれこれ考えることも大切だけれども、腸や腸内細菌の健やかさあってこそその考える葦であり

命だと強く感じるこの頃です。せめて、自分の口に入れるものだけでも、身体や腸内細菌たちが、喜んでくれるものを、少しずつでも作り続けていきたいと思っています。

《現在抱えている問題》

無農薬有機肥料にこだわって 20 年余り続けてきましたが、おかげで益虫も畑のあちらこちらで見かけるようになりました。病害虫も減ってはきましたが、まだまだ悩まされています。減肥料による病害虫予防や、雑草をそのまま生かす方法、不耕起栽培など、様々な体験談を参考に勉強中です。高齢になるにつれての体力の衰えなど、農作業や農法に工夫も必要かと考えています。

《将来めざしたい方向》

EM 農法、自然農法、それぞれ生かしながら無理のない安全・安心な野菜作りを楽しめる生活を目指したいと思っています。一消費者が箱庭でも良いので、自分の健康のためにと、無農薬野菜の一生産者になっていきたくするような、夢のある家庭菜園グループを目指せればと思っています。

《消費者へのメッセージ》

自分の健康は、自分で守りましょう。ひいては、それが土の健康、水の健康、地域の健康になり、自然のあるべき姿になり、人だけでなく鳥や魚や地球上の多くの生き物達の健康に繋がっていくものと信じています。まずは、身近な一歩からです。

山口県立大学国際文化学部「泥パックの会」活動記録



泥パックの名前の起こりはこの日でした



イマドキの大学生が知らない農業関係用語集

この用語集は、この冊子のもとになった、みなさんからのアンケートを入力しながら、山口県立大学の学生たちが、「わからない！」を連発した農業関係の言葉を集めたものです。「わからないなら調べてごらん」という助言にそって、彼女・彼らが調べた結果を簡潔にしてここに掲載しておきます。「うね」といった言葉までがわからなくなるほど、この国の若者たちが農のある暮らしから離れてしまったことにショックを受けますが、同時に、誰にもわかる農業関係用語でなければならないことも痛感しました。

農法

- ・ アイガモ農法…アヒルとカモを掛け合わせたアイガモ（合鴨）の幼鳥を、田植え後の水田に放し、雑草や害虫を食べさせる。フンの肥料効果や、水かきで土壌表層を攪拌することで水田へ酸素補給効果や、水が濁るので雑草の発生を抑える効果もある。
- ・ エコやまぐち 100…山口県内で生産される農産物のうち、化学農薬・化学肥料を 100% 使用せず栽培された農産物を県が認定するもの。エコやまぐち 50 は、通常の化学農薬・化学肥料を 50%以下に低減した作物を山口県が認定。← エコやまぐち農産物認定制度のホームページ H27 基準
- ・ MOA 自然農法…「MOA 自然農法ガイドライン」に記された基準とルールに従って、行われる栽培（農法）のこと。具体的には、農薬、化学肥料を使用（依存）しないで栽培する農法。← 一般社団法人 MOA 自然農法文化事業団
- ・ Mリン農法…有機農法を基本としながら、リン酸の肥効を高めることで作物が吸収する栄養分のバランスを調整する農法。← <http://www.mizuho.to/mrin/> 2017・5・23
- ・ 慣行栽培…県や JA の指導する栽培方法で、除草剤を含む農薬や化学肥料を用いる。
- ・ 慣行農法…各地域において、農薬、肥料の投入量や散布回数等において相当数の生産者が実施している一般的な農法のこと。← コトバンク
- ・ 減農薬栽培…慣行栽培よりも農薬、化学肥料を減らした栽培法。通常 10 成分以上使用する農薬を 5, 6 成分に減らした場合でも該当する。
- ・ 自然農…農薬や肥料を使用しないで自然本来の力を活用する農法。実践者によって手法は様々。耕さない（不耕起）、除草しない、種子を自家採種する、など。
- ・ 代かき…田植えの前に水田に水を入れて土地を砕く作業。田面を平らにするとともに、水田の漏水を防止する。また肥料と土をよく混ぜ、雑草、害虫などの除去を助ける。
- ・ 早期湛水…田植え一ヶ月前に元肥を散布し、できるだけ浅い代かき後に 5cm 程度の湛水を維持して、芽を出す雑草を田植え前の代かきで除く。← 『農家の技術 早わかり事典』農文協

- 炭素循環農法…廃菌床やバーク堆肥、緑肥、雑草などを土に浅く鋤きこむだけで、その他の肥料を入れない農法。← 農文教ルーラル電子図書館
- 中耕…生育している作物の畝間を鋤などで軽く耕すこと。目的は、草取りと同時に根に空気を入れること。← 『有機農業ハンドブック』日本有機農業研究会
- 冬期湛水…稲刈りが終わった水田に冬も水を張ること。雑草が少なくなり、地力が保持され、水生生物が増えるなどの効果があるとされる。← 『農家の技術 早わかり事典』農文協
- にがり農法…海水を濃縮して塩を造るさいに得られる「にがり」には多くのミネラルが含まれており、このにがりを使った農法。
- 深水…稲を植えた田の水深を深くすることで、光が入りにくくし、雑草が生えるのを防ぐ。
- 不耕起栽培…耕さない農法。従来の、堆肥や肥料を畑全面に施用し、深く耕すということをしてない。川口由一さんの自然農など。← 『有機農業ハンドブック』日本有機農業研究会
- B L O F 理論…Bio Logical Farming 生態系調和型農業理論。小祝政明が提唱し、堆肥／ミネラル／アミノ酸を組み合わせて植物の成長メカニズムに合わせた土作りで、品質・生産・病害虫に強い作物を作ることを目指す。 ← <http://nounogakko.com/blof> 17・3・29。
- マルチ…作物を植え付けた畝の土を覆って、草押さえや保温効果を狙う。材料により草、堆肥、再生紙、ポリエチレン等がある。← 『有機農業ハンドブック』日本有機農業研究会

有機資材・肥料

- E M菌…E Mは有用微生物群 (Effective Microorganisms) の頭文字。琉球大学農学部 の比嘉照夫教授が、乳酸菌や酵母菌など 80 種の微生物を培養して開発した。
- えひめA I…ドライイースト・ヨーグルト・納豆を砂糖で発酵させたもの。有効微生物群が身近な市販の原料でできることが魅力。← 『えひめA Iの作り方・使い方』農文協
- 塩安 (塩化アンモニウム) ⇔ 硫安
- 汚泥肥料…食品工場などからの排水・下水・し尿・家畜の排泄物などを活性汚泥法で下水処理して得られる残渣 (汚泥) を肥料にしたもの。← 『有機農法百科』時事通信社
- PH調整剤…食品のPH弱酸性 (6.0~6.5) になるように調剤することで食品の腐敗を抑える添加物。← 郡司和夫／食品ジャーナリスト 2015・4・3

- ・ PK (ミネラルPK) …有機質由来の原料から生まれた化学合成肥料を全く含まない肥料。← <http://www.e-yasai.com/materials/m-cat01/mer-10.html> 2017・1・10
- ・ バーク堆肥…樹皮を原料とした堆肥。
- ・ ヘアリーベッチ…マメ科ソラマメ属の一年草で土壤に窒素を固定する緑肥として利用される。雑草を強力に抑制し、地力増進効果が高い。
- ・ ベレット肥料…有機肥料をベレット加工したもの。堆肥に比べ、扱いやすく、貯蔵性が高いとされる。
- ・ ボカシ…有機物を微生物によって分解して作る肥料の一種。初期に発酵を止めて、すぐに窒素が放出されるようにした窒素分が高い有機肥料。有機物の原形をとどめることが多い。
- ・ マコモ…イネ科の大形多年草。沼沢に大群落をなして自生する。作物としてのマコモは、中国から導入した栽培種。花芽に黒麹菌が寄生シタケノコ状に肥大するので、「マコモタケ」とも呼ばれて販売されている。水田と似た条件で育つ。
- ・ 万田酵素…53種類の植物性の原材料を発酵させた食物由来の健康食品。
- ・ 木酢…木材を乾留した際に生じる、乾留液の、上澄み分のこと。
- ・ 緑肥…草木の葉や茎を新鮮な緑の状態ですぐに耕土に施し、栽培植物の栄養とする肥料。← 日本有機農業研究会、1999『有機農業ハンドブック』日本有機農業研究会

機械

- ・ アイガモン…水田用除草機アッタチメントの名前。従来の草刈機・刈払い機の刃の部分に強化プラスチックで作った特殊カバー「アイガモン」で覆いをして、田んぼの中(水中)の草刈りをする。水がない場所も刃を交換して除草可能。
- ・ チェーン除草機…短いチェーンをたくさん並べて水田の表面にひきずることで、田植え1週間以内の小さな雑草を除去する。人力で引くもの、機械で引くもの(写真)がある。
- ・ 管理機…耕耘機に似ているが、土を飛ばして溝を掘り、うねを作る機械。
- ・ 機械除草機…「乗用型田植え機」の機体の田植え部分の装置を外して、除草機をつけたもの。6条用と8条用がある。
- ・ 手押し田車…イネを植えた条間専用の除草機で前後についた刃を押し引きして田んぼに生えてきた草を除草する道具。
- ・ ハンマーナイフモア…耕耘機に似ているが、耕地の表面を丈夫なナイフのような刃がハンマーのように叩く除草機。モアは英語で芝刈り機のこと。
- ・ ホー…英語で鋤のこと。草かきホーともいい、主に除草に使う道具をさす場合が多い。

その他

- ・ 畝(うね) …畑に作物を植えつけるため、間隔をおいて土を筋状に高く盛り上げた所。
- ・ エコファーマー…1999年に施行された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」(持続農業法)に基づいて、化学肥料や化学農薬の使用を慣行より30%減らした山口県知事認定の農家。←山口県農林水産部農業振興課ホームページ 2017・5・22
- ・ 酒米…日本酒を醸造する原料となる米。「酒蔵好適米」ともいう。米粒が大きく、芯白と呼ぶタンパク質含量の少ない部分が多い。
- ・ 施設園芸…ガラス室やビニルハウスなどを利用して、野菜・花卉・果樹などを栽培する。加温するものとしないものがある。
- ・ 飼料米…家畜の飼料として使用される米。主食用米からの作付転換が比較的容易であることに加え、我が国の国畜産業にとっても、国産飼料生産に立脚した安定的な畜産経営にも寄与する。←農林水産省「飼料用米関連情報」平成29年2月13日更新
- ・ ビオトープ…都市に限らず、農村や山林等も含むあらゆる場所において、生き物の住み着くことのできる場所。水田はもともとビオトープであった。←環境省のホームページ

有機農家の輪をつなげる若者の役割

私たちは、地域貢献を目標とする県立大学の地域実習授業の一環として「山口県の有機農業の現状を調査し、有機農家の輪をつなぐこと」をめざして、2011年6月から、改訂版は2015年6月から活動を始めました。

山口県環境研の会員を中心に、県内の有機農家の方々へアンケートの協力をお願いし、その結果を1冊の冊子にまとめる作業を主に行いました。この冊子は消費者やこれから有機農業を始めようと考えている人、現在有機農業に携わっている人へ向けたものです。様々な人を対象とするので、農業に関する専門的な用語や、私たちが普段耳にしないような言葉に気を配りました。このことは私たちが冊子を編集する上で苦労した点でもあります。

また、山口県環境研のメンバー主催の勉強会に同行し、山口県内の有機農家の方々を訪ね、実際の有機農業にもふれることができました。有機農家の方々は、失敗はあるものの自分のやりたいことに挑戦し、生き生きとした生活を送っておられるということを強く感じました。それぞれの方がそれぞれのポリシーの下で行っているため、人によってその取り組み方は全く違っており、それもまた有機農業の魅力だと気づきました。

有機農業との関わりが深まるにつれて、以下のような課題に気づきました。まず、有機農業に取り組んでいる農家の方が圧倒的に少ないこと。有機農産物を取り扱う店舗がほとんどなく、せっかく作った農産物を余らせてしまうこと。さらに、有機農産物の販売価格が安く、農家の経営が成り立たなくなってしまうことなどです。

これらの問題点は有機農家の方たちと消費者との間に考え方の違いや、情報交換の不足などがあるからだと考えられます。私たちは有機農家と消費者の両方の視点を持つことができたので、互いの思いの行き違いを埋めることが必要だと感じました。

有機の星座の活動を通して、私たち学生が一番の変化は、食事や買い物の時に、これは有機だろうか、身体に悪いものではないかと思うようになった事です。有機農家の方の消費者に対する思いを知った今、これまでは全く気にしていなかった事にも少なからず敏感になれたように思いました。

有機農業に取り組む方は、農業によって地球環境を守りたいという思いや、世界の中の日本の農業の在り方などを真摯に考えている方が多く、国際的な感覚や視点を常に持つことの重要性を改めて感じ、学生としても良い刺激をいただきました。

『有機の星座』を出版することが、有機農業をされている方、より多くの消費者、またこれから有機農業を始めようという人たちをつなぐ一助になれば良いと思います。

今回私たちが活動をするにあたって、多大な協力をいただいた有機農家のみな様に深く感謝申し上げます。

山口県立大学国際文化学部国際文化学科・文化創造学科
地域共生演習学生一同（愛称泥パックの会）

編集後記

山口県に暮らしていると、町も里も豊かな緑におおわれ、そのなかに散らばる赤い屋根の農家、おいしい空気と澄んだ水、透明な海とそこにある海の幸、また山の幸、その豊かさに目を見張ります。

2011年3月11日以後の東京電力福島第一原子力発電所の事故のあと、汚染の少ない、出所のはっきりした資材を使った有機農産品の重要性はますます高まっています。それにしても農薬などの化学物質を使っていない食べものは、どうすれば手に入るのでしょうか。「無農薬」とか「有機」とかの表示をどこまで信じていいのでしょうか。家族に安心・安全な本物を食べさせたいとねがう女性たちに、なんとか情報を届けたい。そんな願いから、この冊子は生まれました。

有機農業をする方を地上の星に見たて、その輝きを星座のようにつなげたい——そんな思いで3人の母であり主婦である女性が2010年の春から始め、夏に山口県環境保全型農業推進研究会の会員を中心にアンケートを送り、秋から学生たちと集計・解析を行いました。2011年3月の第20回山口県環境保全型農業フォーラム（第5回有機農業技術総合研究大会と共催）で、アンケート結果の発表をしました。その後、会員外の方も入れて重ねて調査し編集作業を行い、2012年3月に旧版「有機の星座やまぐち」を発行しました。

それから5年たった今「改訂版」を電子ブックで出す経緯は「まえがき」で述べました。有機農業は未だ少数派です。従ってここに紹介されている方々からは、とびきり正直で、こだわりと頑固さを感じられることかと思えます。「いのちを支える農」を実践しながら「農ある暮らし」と「自然を守る農」の大切さ・豊かさを日々からだで感じて実践しておられる姿が伝わってくる方々です。若者やよそ者がふえて、少し軽やかににぎやかになったかもしれません。

この冊子には載らなかったけれど、同じ思いや取り組みを共有しておられる方はまだまだたくさんおられます。私どもの「星さがし」「星みがき」「星座づくり」の夢はまだ始まったばかりです。仲間に加わっていただけたらたいへん嬉しく思います。

有機農業は、毎日が挑戦、毎日が発見、そして毎年の天候や、それぞれの土地の環境に左右されます。ここに書かれたことは2016年から2017年の春の情報です。年によって状況によって変わることもあります。興味をもたれたら、掲載者に声をかけ、あらたな情報を得ていただくとよいと思います。

農家と消費者、農家と流通にかかわる人とそして消費者、農家と農家が、おたがいに連絡を取り、情報を確かめあい、学びあってつながり、「星座」となって、この山口県を輝かしい住み処にしていきましょう。

お世話になったみなさま、とくに山口県環境保全型農業推進研究会の会員のみなさん、山口県立大学国際文化学部の学生のみなさんに心から感謝もうしあげます。

安溪遊地・安溪貴子

50音別人名索引

あ行

栗谷 怜	11
安溪大慧	13
石田卓成	15
伊藤繁樹	17
井上 義	69
今井喜子	19
浦上卓三	77
小田耕三・美沙子	79

か行

亀谷政司	21
河上 悟	23
河上 肇	25
河野龍夫	27
木村節郎	81
國本悦郎	83
久保芳則	29

さ行

穴戸宣之・佐智子	55
白尾公広・良子	57

た行

高橋 正	31
田中正男	33
田中康博	35
種田 実	37
徳本新治	39

な行

中澤美樹	41
中野喜美	71
中野茂樹	73
中浜良太郎	85
中村進卓	43
中本浩行	59
新田 孝	61
能美忠治	45

は行

原田正暁	47
比嘉朝康	63
福田嘉夫	49
藤井悦男	87
藤井右治	89
堀野民生	65

ま行

松田和彦	91
宮田正樹	93
村田竜夫・和江	51

や行

安田善雄	95
安森ミエ子	67
山影照子	53
山本千恵子	97

有機の星座やまぐち・2017

2017 年7月6日

編 者 「有機の星座やまぐち」をつくる会

発 行 者 阿東ゆうきの会

〒753-8502 山口市阿東徳佐中 1694-2

TEL・FAX： 050-5207-1887

E-mail t@ankei.jp

協 力 山口県立大学国際文化学科・地域実習Ⅰ科目受講生